

2004年度
講義計画

桃山学院大学

講 義 計 画

昭和40年

信義塾

信義塾大学

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
インドネシア語 I a		通 期	2 単位	深 見 純 生
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この授業は、基礎的なインドネシア語の習得を目的としている。毎回の授業では、可能な限りインドネシア語を聞き、話すことによって、インドネシア語の発音と表現に受講者の耳と口を慣らすようにしたい。</p> <p>インドネシア語の文法にはあまり細かくこだわることなく、日常の様々な場面でどのようにインドネシア語を使って、コミュニケーションするか、そのために必要なもっとも基礎的な言葉と表現を学んでいきたい。</p> <p>授業の合間にインドネシアの音楽を聞き、また映画などを見ることで、インドネシアの言語と文化をより身近に感じるようにしたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>あいさつ、自己紹介からはじめて、買い物や食事などでつかう表現まで毎回の授業で学んでいく。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席と授業中の学習態度、学習課題への取り組み、および各学期末におこなう試験の成績を総合的に評価する</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>武部洋子『旅のゆびさし会話帳② インドネシア』 情報センター出版局</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
インドネシア語 I b		通 期	2 単位	ティティス ニティスワリ Titis Nitiswari
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この授業は基礎的なインドネシア語の習得を目的としている。授業内容は、発音、語彙、文法、そして簡単な会話や作文を含んでいる。具体的には、一冊の教科書に沿って、ゆっくり丁寧な学習を行いたい。インドネシア語は、比較的学習しやすい言語である。そのため、授業は複雑ではなく、大量の予習復習も必要ではない。ただ、授業進行が円滑になるように、できるだけ継続して出席して常に授業内容を把握していることが望まれている。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>一冊の教科書を一年かけてゆっくり丁寧に学習したい。</p> <p>前期は、主に、発音、語彙、簡単な文法や構文の習得を目指す。後期には、より複雑な文法とその運用を学んでゆく。大量の予習復習は必要ないが、毎回の授業で練習に積極的に参加して頂きたい。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席・授業参加の態度・各期末の書き取りなどの総合評価。なかでも、継続して出席して、積極的に授業中の練習に参加することを最も重視したい。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>柴田紀男『CDエクスプレス インドネシア語』（白水社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語 I a	01	通 期	2 単位	藤 原 健
【講義概要・学習目標】 大学に入って、これから学部の留学生として生活していくことになるわけだが、何かにつけていやでも日本語の実力不足を痛感していくのではないだろうか。 日本語の能力が不十分なまま大学に入り、その後、大学生活に慣れたり、専門の科目の勉強などに忙しかったり、日本語そのものの勉強まで手が回らなくなるのではないかと思う。さらに、今までの初級や中級の「日本語の教科書」に出てきた日本語と、大学の授業で使われる日本語の語彙や文体の差に驚くことになると思う。 この授業では、学部の講義で用いられるテキストの文体に慣れるため、心理学・数学・衛生学・生物学などの専門書のばっすいを丁寧に読み進め、内容の把握に努める。また、助詞相当語の意味・用法の確認も併せて行う。	【講義計画】 <読解(精読)練習> (1)各専門分野の文章を読む ・語彙や文型を考える ・内容の把握をする ・シートの設問に答える (2)課によって、要約をする			
【成績評価の方法】 出席を重視し(年授業回数の3分の2以上が必要)、評価は進度に応じて年に数回の平常試験(4回程度)で行う。 詳しくは、授業初回に説明する。	【参考文献】 山本一枝・田山のり子・坂本恵(共著)『はじめての専門書』(凡人社)			
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語 I b	01	通 期	2 単位	吉 岡 美 穂
【講義概要・学習目標】 日本語の学習はコミュニケーションのための重要な道具となるが、それだけでは日本の文化を理解することはできない。 このクラスでは、言語のしくみと働きに焦点をあて、さまざまな角度から「ことばと文化」のおもしろさを学んでいく。	【講義計画】 異文化に関する記事や文献を読み、理解し、エクササイズを用いて異文化理解を深めていく。			
【成績評価の方法】 ・出席・テスト・宿題・レポート・授業への参加度、態度。	【参考文献】 ・「異文化コミュニケーション入門」池田理知子(有斐閣アルマ)			
【教科書】 資料は教員が準備する。辞書を必ず持参すること。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日 本 語 I a	02	春学期集中	2単位	清 水 明 子 清 水 明 子 三 木 由 里 子 三 木 由 里 子
日 本 語 I a	03	秋学期集中	2単位	
日 本 語 I b	02	春学期集中	2単位	
日 本 語 I b	03	秋学期集中	2単位	
[講義概要・学習目標] 日本語の四技能を伸ばすとともに、運用力をつける。	[講義計画] 日本語1a：読解・聴解・文字語彙 日本語1b：文法・文字語彙			
[成績評価の方法] 小テスト数回および期末試験を行う。出席を重視する。	[参考文献] なし			
[教科書] 読解：『日本語中級J301 基礎から中級へ』土岐哲他 スリーエーネットワーク なお、開講後にレベルチェックをした上で変更する可能性があるため、開講前に準備する必要はない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語Ⅱ a	01	通 期	2単位	高田里恵子
[講義概要・学習目標] 大人になってから学んだ語学を「話せる語学」にするためには、「書く」練習が欠かせない。 この授業は、ごく簡単なドイツ語作文をし、その文を繰り返して口に出して読んでみるという練習しながら、会話力を伸ばすことを目標とする。まず行なってもらいたいのは、大きな声でドイツ語を話すということである！ 反復練習をする持続力、決められたことを決められた時間内でこなす能力は、どんな職業、どんな分野にも求められるものである。この能力を、ドイツ語学習を通して身につけてもらいたい。	[講義計画] 1. 簡単な文法の復習 2. seinとwerdenを使って 3. 日常生活のなかの助動詞 4. 接続法を使いこなす 5. ドイツ語と数字表現			
[成績評価の方法] 前期と後期の最後に試験を行なう。成績（可否）はⅡbの担当の教員と相談のうえ決定される。また平常点も重視するが、それはたんに出席することではなく、授業に積極的に参加することを意味している。授業中の態度や勉強意欲を正當に評価できるように、授業のやり方や内容、テストの問題を工夫するつもりである。	[参考文献] 授業中に指示する。			
[教科書] 教科書は使用しない。プリントを配布するので失わないこと。また、初級クラスで使用した文法の教科書（何でもよい）と独和辞書を毎回持参すること。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語Ⅱ a	02	通 期	2 単位	田 中 秀 穂
【講義概要・学習目標】 初級ドイツ語の授業で身につけた知識をもとに、自分でドイツ語の文を作ってみよう。文法事項ごとに構成された明快なテキストを使用し、やさしく基本的な短いドイツ語を書き表わせるようになることを目標とする。 練習問題には、必要な単語やヒントが添えられており、和独辞典は不要であるが、独和辞典は必ず持ってくること。 文法事項などで忘れたことや分からないことがあれば、そのつど説明するので、表現してみようとする姿勢を大切に積極的に参加してほしい。	【講義計画】 【前期】 動詞の現在人称変化、冠詞と名詞の格変化、冠詞類、副文、前置詞、過去人称変化、分離動詞など 【後期】 現在完了、未来、語法の助動詞、形容詞、再帰動詞、関係代名詞、受動、zu 不定詞句、比較、接続法など			
【成績評価の方法】 前期と後期の終わりに試験を行なう。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、a を担当する教師と b を担当する教師が相談し総合的に決定する。 詳細は、I a (初級文法) のクラスで毎年配布している「初級ドイツ語を学ぶ学生のために」というプリントを参照すること。	【参考文献】			
【教科書】 著 者： 横山 靖 書 名： ドイツ語の作文と文法 [新正書法版] 発行所： 郁文堂				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語Ⅱ b	01	通 期	2 単位	坂 昌 樹
【講義概要・学習目標】 できるだけドイツ語を楽しんでみたいと思います。テキストは指定せず、毎回教員が用意します。ですから原則として、この授業に予習はいりません。ポップスなどを聞いたり、インターネットなどを利用してドイツ語を学ぶことができれば良いと考えています。それでも学習の重点は、ドイツ語の文章を読み解くことにあります。その際、ドイツ語Ⅰで習ったことの復習だけでなく、ドイツの人々の感情表現を少しでも理解できるようところがたいと思います。わからないことがあったら何でも質問してください。わからないことがあったり、あるいはドイツ語Ⅰで習ったことを忘れてしまっても、そのことを低く評価したりはしません。低く評価するのは、それらを知らないままにしておく態度です。積極的な授業参加を望みます。	【講義計画】 ドイツ語のポップス（フォークソング、ロックなど）を聞きます。 Die Prinzen, Jule Neigel, Marius Müller-Westernhagen, Herbert Grönemeyer, Nena などの歌手を予定しています。			
【成績評価の方法】 毎回の授業で出席をとり、前期と後期の終わりに試験を行います。また、授業への積極的な参加も評価されます。ただし全体の成績評価は、Ⅱ a を担当する教師と相談して総合的に決定します。	【参考文献】 独和辞典とドイツ語Ⅰ a (文法) の教科書を毎回持参してください。 連絡先：(研究室) アンデレ館 7 階 725 室 (tel) 0725-54-3131 (内線) 3725 (Email) ban@andrew.ac.jp 面談：在室中は、随時可能です。 ※ドイツ語の講義すべてとの関連で、夏休みに 4 週間、ドイツの大学（フライブルク大学）でドイツ語を勉強する語学研修を国際センターが募集しています。とても楽しい研修です。みなさんも一度、ドイツへ行ってみませんか？			
【教科書】 なし。毎回のテキストは教員が用意します。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語Ⅱb	02	通 期	2 単位	村 田 佳 隆
【講義概要・学習目標】 とにかく復習から始めよう。一年次で学ぶ内容は、おそらく消化不良になっているであろうから、もう一度der, des, dem, denからしっかりと整理しなおすことを最初の目標とする。 毎回の出席と完全な準備、そしてなによりも授業中の緊張が要求される。	【講義計画】			
【成績評価の方法】 前期と後期の終わりに試験を行う。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し、総合的に決定する。	【参考文献】			
【教科書】 早川、Muenzer 『新・ドレーガー失踪事件』 第三書房				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語Ⅱa	01	通 期	2 単位	一ノ瀬 真 美
【講義概要・学習目標】 既にフランス語Ⅰでフランス語の初歩を学んだ学生を対象に、様々な、バラエティに富んだテキストを通して、読む・聞く・話す・書くという総合的なフランス語の運用力を養うことを目指します。積極的な姿勢で授業に臨むことが要求されます。理解できないことは授業中に質問してその場で解決しましょう。なお、辞書は必ず持参すること。	【講義計画】 既に学んだ事項を必要に応じて復習しながら、以下に挙げる文法事項を中心に習得していきます。 1. 指示代名詞；所有代名詞；関係代名詞 2. 中性代名詞；副詞的代名詞 3. 単純未来；前未来；半過去；大過去 4. 条件法現在；条件法過去 5. 接続法現在；接続法過去 6. 等位節；様々な従属節；間接疑問 7. 不定詞の複合形；現在分詞の複合形			
【成績評価の方法】 前期と学年末の定期試験と授業中の小テスト、課題などの平常点で総合的に評価します。	【参考文献】			
【教科書】 阿南婦美代、井上富江、コモン・ティエリ 共著 「コム・ボンジュール (三訂版)」 (白水社)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語Ⅱ a	02	通 期	2 単位	ロー・ヤマサキ・アニー
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>勉強の仕方は一年目と同じですが、普通のフランス人が、今、言っている様々な書物や雑居言志、新聞から、色々なテーマの文章を学ぶため、その内容を理解しながら、それらに関して、会話でもあつかえるように、フランス語の実力を養います。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>現代文を自由によめるだけでなく、こちらから発信できるように、普通の表現に必要な文法をさらに学びます。特に動詞活用は、一年次でマスターしたものの、現在形とそれらを用いた基本的な、様々な表現法以外に、さらに、標準的フランス語の言表し、書き、会話に必要で、役立つ範囲にひらいて学習し、各辞書は、ゆかにクラスに持参すること。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席、平常点と期末試験で評価します。毎回、小テストや小レポートを行います。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>『クラウンイロ和名典』三省堂</p>			
<p>[教科書]</p> <p>プリントを使用。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語Ⅱ b	01	通 期	2 単位	オリヴィエ・ビルマン Olivier Birman
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>実際に「話す」、「聞く」、「読む」、「書く」作業を行い、前年度に学んだことを見直しながら知識を広め、理解を深めます。道具は使ってはじめて手になじみ、改善すべき点も明らかになります。フランス語の文法感覚も、フランス語をどんどん使うことによって、磨かれていくはず。なお教科書と連動して、フランス語Ⅱaクラス用の文法、作文、読書の練習のプリントを作ります。</p>	<p>[講義計画]</p> <p><前期> 自分について述べる、人を紹介する、評価する、提案する、承諾する、拒否する、執拗に求める 過去の物語、出来事の展開を話す 電話をする、情報を求める、会う約束をする 等々</p> <p><後期> 過去の物語、出来事の展開を話す 出来事の背景について説明する 事柄を確かでないこととして伝える、事柄を確実なこととして伝える 等々</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>成績評価は、つぎの3つの合計により与えられます。 ① 出席 ② 提出物 ③ 試験</p>	<p>[参考文献]</p> <p>『東京ーパリ、フランス語の旅』、著者：藤田裕二、藤田知子、S.Gillet、駿河台出版社、1997年 『フランス語がわかる』、著者：曾我祐典、白水社、1995年 『コレクション フランス語 ③ 文法』、著者：西村牧夫、曾我祐典、白水社、1990年</p>			
<p>[教科書]</p> <p>『ディアローグ』 著者： オイヴィエ・ビルマン、木内良行 他 第三書房、1997</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語Ⅱb	02	通 期	2 単位	本 多 雄一郎
[講義概要・学習目標] この授業では、フランス語の文法を復習することで確実に身につけたが ら、日常会話の表現を習得したり自分の意見・考えを述べたりできるよ うにフランス語の運用力を養成することが目標です。	[講義計画] <前期> フランス語Ⅰで学んだことを確認するために、今一度初歩の会話 表現を見直したうえで、教材やプリントによって「話す」「聞く」 能力をのばしていく。 <後期> 基本表現をひきつぎ学んでいく。それと並行して自分で質問したり、 意見・感想を表現することにも挑戦していく。			
[成績評価の方法] 前、後期試験と平常点で総合評価します。	[参考文献]			
[教科書] 『コミュニケーションのための4のユニット』 佐藤 康 著 駿河台出版社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
スペイン語Ⅱa	01 02	通 期 通 期	2 単位 2 単位	ゴンザレス ダリオ Gonzales Dario
[講義概要・学習目標] (学習目標) 基礎的な知識を応用して、実践的に使えるスペイン語を目指す。 (講義概要) 英語に次いで世界の数多い国々で使用されているスペイン語は 近年世界経済の動向・国際交流、観光の面から使用する機会が増えている 現状から、まずコミュニケーションの出来るスペイン語を目指し講義を進 める。 本講義では、視聴覚教材を活用することにより、スペイン語の全体的な 流れを理解すると同時にヒヤリングの力をつける。又、旅行した時に直面 する事柄を考えて学習していく。 学生諸君には、常時、西和和西1冊になった小辞典の携帯を必要とする。 語学マスターの鍵は、授業に対する積極的な参加、恥を捨てず人前で話 す、根気強く口頭反復練習をする等の各自の努力によると考える。	[講義計画] (前期) 1・空港にて 2・タクシー乗り場 3・ホテルのフロント 4・銀行での両替 5・聖家族教会 (後期) 1・交通機関(地下鉄、バス) 2・試着と買物 3・レストランでの注文 4・郵便物の発送 5・薬局、病院にて			
[成績評価の方法] 小テストの平常点と出席点とで総合評価する。	[参考文献] 宮城 昇(編)「スペイン語 ミニ辞典」(白水社) ヘレン・デイヴィーズ(著)「絵で見る辞典スペイン語入門」(洋販出版)			
[教科書] 辞書の携帯を必要とする。 プリント配布。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
スペイン語Ⅱb	01 02	通 期 通 期	2単位 2単位	ゴンザレス ダリオ Gonzales Dario
[講義概要・学習目標] (学習目標) スペイン語の基本的な知識を応用する力を伸ばしコミュニケーションの出来るスペイン語を目指す。 (講義概要) 本講義では、前年次に継続し、基本的な知識を習得しながら、読解力、会話力を身につける。その為には、単語を調べる地道な作業を怠ってはいけない。更に、基本文型を応用する能力を伸ばす為にも語彙数を増やすように努力することは大切である。以上の観点から、西和和西1冊になった小辞典の携帯は必要である。又、人に聞き取れる声で話すことは、会話の基本になるので、学生諸君には、口をしっかりと開けるように心掛けて欲しい。 国際的な感覚や、視野を広める為にもスペインや、中南米諸国の生活習慣や文化についても適宜触れて幅広く学習を進めていきたいと考えている。	[講義計画] (前期) スペイン語圏の生活習慣を紹介しながら日常会話の表現力をつける。 訪問先での対応、自己紹介の仕方、食事の仕方、フィエスタでの対応(誕生日、クリスマス)等。 (後期) 音楽、ビデオ、童話、雑誌などの補助教材を活用することにより、スペインや中南米の文化に触れながらヒヤリング力、読解力を身につける。			
[成績評価の方法] 小テストの平常点と出席点とで総合評価する。	[参考文献] 宮城 昇(編)「スペイン語 ミニ辞典」(白水社) ヘレン・ディヴィーズ(著)「絵で見る辞典スペイン語入門」(洋販出版)			
[教科書] 辞書の携帯を必要とする。 プリント配布。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イタリア語Ⅱa	01	通 期	2単位	和栗 珠里
[講義概要・学習目標] イタリア語Iで学んだことを基礎に文法力の一層の充実を図り、表現力と理解力を高めることがIIでの課題である。実践的な演習形式を多くとり入れて聞く力・話す力の向上を目指すのはイタリア語Iと同じだが、さらに、学生同士で意見交換をしながら文書を読んだり書いたりすることにより、高度で総合的なイタリア語の力を養っていく。文法等の教科書は使用せず、プリントを活用して、多面的にイタリア語に取り組んでもらう。 なお、この講座はイタリア語Ⅱb(01)と対になっており、授業はこれと連携しながら進めていく。	[講義計画] <春学期> イタリア語の構造のまとめ 1. イタリア語Iの復讐と実践練習 2. 様々な過去時制(半過去・大過去・遠過去) <秋学期> 表現力と実践的運用力の充実 1. 未来形と条件法 2. 命令法 3. 演習			
[成績評価の方法] 平常点(授業における積極性、反応度、理解度)を基本とする。また、年に数回の筆記試験を授業中に行い、適宜課題の提出も求める。これらの材料から受講生各々の能力を総合的に判断して評価を決定する。	[参考文献] 白崎容子著『イタリア語速習15日』(創拓社)			
[教科書] 教科書は使用しないが、次のいずれかの辞書を必ず授業に持ってくこと。 小学館『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』(定価3000円) 小学館『伊和中辞典』(定価6600円)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イタリア語Ⅱa	02 03	通 期 通 期	2単位 2単位	鳥 居 正 雄
[講義概要・学習目標] テキストを使って1の範囲の復習と、1で扱いきれなかった文法の残りを最後までやります。基本的な動詞の変化が十分に頭に入っていない諸君がかなりいるようなので、動詞の変化を中心に練習問題を使った演習を、プリントを使ってみっちりやります。会話も基本的には作文なので、文章が一通り作れるようになることを目標にします。語学はすべて継続することが大事なので毎時間必ず出席することが必要です。当大学では毎年、授業開始時間に出席している学生は3割程度なので、欠席や遅刻が日に余るような諸君には、こちらから履修辞退を要求することがあります。また、aクラスだけ出席してbクラスは出席しないとか、再履修だからという理由で出席しない怠け者の学生や、授業中に携帯で遊んだり寝たりするような集中力の無い学生や、常習的に遅刻する学生には単位を与えるつもりはありません。	[講義計画] 『前期』 単元毎の文法説明を行います。必要に応じてプリントを使います。各課ごとに練習問題をして理解を完全なものにします。動詞の変化を徹底的に反復して覚えてもらいます。映画やVideoを鑑賞し、それらを通してイタリア的な感性に対する理解を養います。 『後期』 テキストに従って、文法説明を前期と同じように行います。ヒアリングの機会を増やして発音とアクセントの正確さを高めます。カンツォーネやオペラを鑑賞し、それらを通してイタリア的な物の考え方に対する理解を深めてもらいます。			
[成績評価の方法] 毎回渡す宿題の練習問題の点数と、期末のテストとレポートの点数、それに授業中の問題に対する答えの出来ぐあいを総合して評価します。	[参考文献] どのような分野でも良いので、イタリアに関する自分の関心のある分野の本を図書館や書店で出来るだけたくさん読むこと。			
[教科書] K. Katerinov, L. Berrettini, etc.: Si, Parlo italiano. Bruno Mondadori.				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イタリア語Ⅱb	01	通 期	2単位	啜 絵 里
[講義概要・学習目標] イタリア語Iで学んだことを基礎に文法力の一層の充実を図り、表現力と理解力を高めることがIIでの課題である。実践的な演習形式を多くとり入れて聞く力・話す力の向上を目指すのはイタリア語Iと同じだが、さらに、学生同士で意見交換をしながら文書を読んだり書いたりすることにより、高度で総合的なイタリア語の力を養っていく。文法等の教科書は使用せず、プリントを活用して、多面的にイタリア語に取り組んでもらう。 なお、この講座はイタリア語IIa(01)と対になっており、授業はこれと連携しながら進めていく。	[講義計画] <春学期> イタリア語の構造のまとめ 1. イタリア語Iの復習と実践練習 2. 様々な過去時制(半過去・大過去・遠過去) <秋学期> 表現力と実践的運用力の充実 1. 未来形と条件法 2. 命令法 3. 演習			
[成績評価の方法] 平常点(授業における積極性、反応度、理解度)を基本とする。また、年に数回の筆記試験を授業中に行い、適宜課題の提出も求める。これらの材料から受講生各々の能力を総合的に判断して評価を決定する。	[参考文献] 白崎容子著『イタリア語速習15日』(創拓社)			
[教科書] 教科書は使用しないが、次のいずれかの辞書を必ず授業に持ってくこと。 小学館『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』(定価3000円) 小学館『伊和中辞典』(定価6600円)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イタリア語Ⅱ b	02 03	通 期 通 期	2単位 2単位	米 山 喜 晟
[講義概要・学習目標] 一年生で学んだイタリア語の知識を土台にして、イタリア語の文法を最後まで仕上げるのがこの授業の目的である。やはりせっかく大学で学んでいるのだから、イタリア語文法の全体像が見えるところまで、また一応イタリア語が使えるところまで、授業を進めたい。	[講義計画] 前半で教科書の11課までを終える。そこまでは一年生で学んだことの復習が大半の時間を占めるであろう。後半で、それ以後の部分、最後の21課まで進み、イタリア語文法を完了する。 とにかく毎週の範囲の復習、予習を怠らないこと。一日最低一時間以上はイタリア語を声を張り上げて読み、例文と動詞の変化を暗記すること。全文を暗記すればイタリアで生活するのに困らない。一応イタリア語ができるはずだ。			
[成績評価の方法] 2回の試験の成績の平均によって評価する。平均40点以上を取れば合格。60点以上はA。ボーダーライン上の点数は、出席点を加味する。	[参考文献] 坂本鉄男著『イタリア語の入門』（白水社） その他一応きちんと叙述されているものなら何でも良いから、まともなイタリア語の文法書を一部常に手元において、授業を理解するための参考にすると同時に授業の進行に併せて読み進み、期末までに読み終えることが望ましい。 そうすれば、さらにははっきりとしたイタリア語文法の全体像が把握できて、諸君の頭脳の中で、一生の財産となって残るであろう。			
[教科書] S. Kobayashi: Nuove Ventun Lezioni d' Italiano				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ロシア語Ⅱ a		通 期	2単位	国 松 夏 紀
[講義概要・学習目標] 「ロシア語Ⅰ a・Ⅰ b」で、文字と発音を含めて、一通りの基礎文法を学んだ諸君を対象とし、ロシア語の文章を読み、それを基にして話したり、聞いたりする練習もします。少し間が空いて、もう忘れたこともあるでしょうし、まだ充分学んでいなかったこともあるでしょう。それらを復習し、補いながら、こまめに辞書を引きつつ読んでいきましょう。それと同時に、テープなどで、音を聞き、自分でも精一杯声を出して滑らかに読めるように練習してください。 地道に努力を重ねると、ロシア語を通して、思わぬ豊かなロシア世界が眼前に開けることでしょう。	[講義計画] 教科書を開くと「まえがき」に次のように書かれています。 「初級の後半くらいから中級の学習者むけに、やさしくて、短くて、面白い読み物を集めました」と。そして「内容は笑い話、ロシアの地理、気候、料理、スポーツ、伝説、工芸、ジェスチャー、日露交流史、短編小説などいろいろです」。 巻末には「単語集」もついていますので、どんどん読んでいきましょう。でも、念のためこまめに辞書を引くことも忘れないように。			
[成績評価の方法] 必ず予習をして、出席すること。やむを得ず予習が間に合わなくとも、とにかく教室に出てくること。その「平常点」と、春学期末・秋学期末の試験により、総合的に評価します。	[参考文献] 授業中随時、広くロシア関係の話題を提供するとともに、「参考文献」も紹介するつもりです。			
[教科書] 笹尾道子・藤井悦子・杉山秀子・滝川ガリーナ著 『やさしいロシア語読本』 大学書林刊				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ロシア語Ⅱb		通 期	2単位	杉 野 ゆ り
<p>[講義概要・学習目標] 初級文法より詳しく体系的な文法を勉強しながら、テキストを読む力を付けるのが目的です。読む力をしっかりと身に付けて、次に会話と作文でその力を応用しましょう。 辞書を引いて怠りなく予習すること。テープを繰り返し聞いてロシア語の文章をしっかりと覚えること。一生懸命勉強すれば、ロシア語はあなたの生涯の友人となるでしょう。</p>	<p>[講義計画] 教科書は10課からなります。教科書に沿って前期で5課、後期は残り5課の予定です。</p>			
<p>[成績評価の方法] 平常点（出席回数、小テスト）と前後期の定期試験の点数によって評価します。</p>	<p>[参考文献] 露和辞典必携</p>			
<p>[教科書] 戸辺又方著「一年生のロシア語」（白水社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語Ⅱa	01	通 期	2単位	林 宏 作
中国語Ⅱb	01	通 期	2単位	
<p>[講義概要・学習目標] 中国語Ⅰで修得した発音と語法をふまえて、語彙をふやし、読解力のスピードアップを目指す。受講生は必ず予習・復習を励行し、出席を怠らないこと。また毎課の後に附している練習問題は宿題として必ず提出すること。出席状況及び宿題の提出をもって平常点とする。</p>	<p>[講義計画] <前期> 復習編（一）～（五）及び応用編第1課～第5課 <後期> 応用編第6課～第14課</p>			
<p>[成績評価の方法] 平常点と前・後期の試験による。</p>	<p>[参考文献] 香坂順一 編『簡約 現代中国語辞典』 光生館</p>			
<p>[教科書] 丁秀山、坂井田ひとみ 編著 『日常的対話』 金星堂</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語 II a	02	通 期	2 単位	サ 左 コウ 虹
中国語 II b	02	通 期	2 単位	
〔講義概要・学習目標〕 この科目は 中国語Iで学んだ事項をもとに 書面語を中心とした学習と訓練を行いなから、応 用力を養成することを目的とする。多様なスタイルを もった書面語を読みながら、文法と語彙に関する知 識をより広く、深くしようとする。この科目は、現実の中国 語の世界に入るための準備であり、中国語の表現力を 強化する前提となる。	〔講義計画〕 原則として、春学期、秋学期、テキストの半分ずつ 消化していく。 ※ 最初の授業で受講者の要望を把握した上で 授業の具体的な内容や進め方を決める。			
〔成績評価の方法〕 学期末の定期試験に平常時の学習状況を加味 して総合評価する。	〔参考文献〕 授業中に指示する			
〔教科書〕 「中国生活便り」 山下輝彦 著 白水社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語 II a	03	通 期	2 単位	ジヨ 徐 コク 国 ギョク 玉
中国語 II b	03	通 期	2 単位	
〔講義概要・学習目標〕 この授業では中国語の聞く力、話す力、理解力を一層高めることを 目標とする。1年次で学んだピンイン、語彙、文法事項を復習しながら、 より上の段階の語彙、文法を系統的に学習する。徐々にちょっと難し い会話ができるように進めていく。	〔講義計画〕 【前期】 第1課～第7課 【後期】 第8課～第15課			
〔成績評価の方法〕 出席状況、平素の小テストの評点と前期、後期のテストの評点 で総合的に評価します。	〔参考文献〕 『中日辞典』（小学館）			
〔教科書〕 『中国語実力アップ教本』（徐国玉／山田忠司 著 白帝社出版）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語 II a	04	通 期	2 単位	か 何 い 為
中国語 II b	04	通 期	2 単位	
[講義概要・学習目標]		[講義計画]		
<p>一年の時に習ったものを復習しながら、新しく出現する文法事項、表現文型を学び、より高度な会話力と読解力を身につけることが目標。実際練習を中心に適宜文法等の説明を加える。</p>		<p>原則的に半期はテキストの半分まで進み、一年間で一冊を修了する。</p>		
[成績評価の方法]		[参考文献]		
<p>試験の成績と平常点で総合評価する。</p>		<p>「中国語辞書」 白帝社</p>		
[教科書]				
<p>「話す中国語 北京編2」 董燕、遠藤光暁著 朝日出版社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
朝鮮語 II a		通期	2 単位	徳 成 外志子
[講義概要・学習目標]		[講義計画]		
<p>朝鮮語初級修了者を対象に、テキストに沿って、より上の段階の文法、文型の学習を系統的に進めつつ、実用会話や旅行会話を中心に修得する。 この授業では、特に、会話能力を高めることに重点を置きたい。ビデオや録音テープを使って聞き取り能力を養い、授業はできるだけ朝鮮語で対話を行いながら進め、簡単な日常会話ができるようにもしたい。 昨年度はテキストの「Ⅰ、日常会話」を学習したが、本年度は同じテキストの「Ⅱ、実用会話」を中心に学習する。テキスト基本会話は対話形式になっているので、二人組になってロールプレイングをしたり、内容に関する自由な対話・問答を行ったりして、基本表現を身につけ会話力を高める。 余裕があれば、併せて、簡単な朝鮮語の読み物、韓国の歌、新聞雑誌などまで多様な文章を副教材として取り上げ、読解能力も高めると同時に、韓国の生活や風俗、文化の一端が理解できるようにしたい。また、朝鮮語で自己紹介をしたり、学んだ語彙や文法の範囲で自由な作文を行い、朝鮮語で考え、朝鮮語で自己の意思を表現する基礎的練習を行う。 授業は基本的に韓国で使われている言葉を中心に学び、朝鮮民主主義人民共和国で韓国と異なって使われている部分は、適宜補注していきたい。</p>		<p>前期：1. テキストの13課から、初級の発音、文法の復習をかねて行い、17課まで進む。 2. テキストの基本会話を二人組になってロールプレイングをしたり、内容に関する自由な対話・問答を行って、基本表現を身につけ会話力を高める。 3. 簡単な副教材プリントや歌、ビデオなど。 4. 初歩的な作文</p> <p>後期：1. テキスト18課から24課まで。 2. テキストの基本会話を二人組になってロールプレイングをしたり、内容に関する自由な対話・問答を行って、基本表現を身につけ会話力を高める。 3. やや高度な内容の副教材プリントや歌、ビデオなど。 4. 作文</p>		
[成績評価の方法]		[参考文献]		
<p>毎課行う小テストと学年末に行うテストの比重が最も高い(60%)が、それに出席(30%)や普段の課題への取り組み(10%)を総合的に評価する。語学は特に、出席と普段の授業の予習・復習が大切である。</p>		<p>辞書等は授業で説明する。</p>		
[教科書]				
<p>木内明・佐野良一『今すぐはなせる韓国語(応用編)』株式会社ナガセ</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
朝鮮語Ⅱb		通 期	2 単位	青 野 正 明
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この時期は、ある程度の基礎的な文法がわかっているため、高度な文法や文章表現の理解も容易であろう。 「朝鮮語Ⅰb」で学んだ基礎力をもとに、さらに文法をしっかり学びながら、徐々に難しい文章の翻訳ができるように進めていく。 1年間を終えた段階では、辞書を引きながら新聞記事や簡単な論説文を翻訳することができるだろう。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>春学期：第11～17課 秋学期：第18～25課</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席状況、受講態度、期末試験を総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>金東漢・張銀英『韓国語レッスン 初級Ⅱ』 スリーイーネットワーク、2001年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
インドネシア語Ⅱa		通期	2 単位	小池 誠
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この授業では、1年目に覚えた基礎的なインドネシア語の力（語彙と文法、会話力）をもとにして、それをさらに発展させたい。実用的なインドネシア語能力を高め、少しでもインドネシア語でコミュニケーションできるようにしたい。 また、比較的簡単なインドネシア語の文章を教材に用いて、辞書を使って読む力も養いたいと考えている。 授業の合間にインドネシアの音楽、テレビ番組と映画のビデオを見ることで、インドネシアの文化をより身近に感じるようにしたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 会話力の発展 2 辞書の引き方、とくに接辞の処理 3 テキストの購読 4 テキストをもとにした会話 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席と授業中の学習態度、学習課題への取り組み、および各学期末に実施する試験の成績を総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>授業中に指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>なし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
インドネシア語 II b		通 期	2単位	ティティス ニティスワリ Titis Nitiswari
<p>【講義概要・学習目標】</p> <p>二年目のインドネシア語の学習で、この授業では、主に実践的な運用能力の向上を目指したい。具体的には、昨年度の教科書を継続して使用しながら、そこで得られた知識が実際に話せたり・聞き取れたりできるように練習したい。大量の予習復習を課すことはないが、二年目の入るために、単語や構文を記憶してゆくことは大切になってくる。それに役立つような授業中での練習を試みたい。</p>	<p>【講義計画】</p> <p>前期では、主に、1年目で学習した基本的な構文の復習と補強を行いたい。具体的には、名詞文・形容詞文・簡単な動詞文の復習である。この練習のなかでは、日常的に良く使われる単語を紹介して、実践的な知識を補強したい。後期では、主に、より語法的・文法的な項目の練習を増やしてゆきたい。</p>			
<p>【成績評価の方法】</p> <p>出席・授業参加の態度・各期末書き取りの総合評価。授業中に積極的に練習に参加することを最も重視したい。</p>	<p>【参考文献】</p>			
<p>【教科書】</p> <p>柴田紀男『エクスプレス インドネシア語』（白水社） 昨年度のものを継続して使います。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語 II a		通 期	2 単位	藤 原 健
<p>【講義概要・学習目標】</p> <p>大学に入って1年以上経ち、留学生として日本語の実力不足を自分たち自身がいちばん痛感しているのではないだろうか。</p> <p>日本語の能力が不十分なまま大学に入り、その後、日本語の能力は伸びず、むしろ専門の科目の勉強などに忙しく、日本語そのものの勉強まで手が回らなくなっているのが現状ではないかと思う。さらに、テキストなどに出てくる日本語と、実際回りで見聞きする日本語の差に驚いているのではないだろうか。</p> <p>この授業では、昨年度使用の『インタビューで学ぶ日本語』（凡人社）の残りの課を使って、普通の日本人の日本語を聞き取る練習をする。これは、他の聞き取り用のようにわざわざ録音されたものではなく、ネイティブの日本人にインタビューしたそのままの録音教材である。</p>	<p>【講義計画】</p> <p><聴解練習></p> <p>(1)インタビューのテープを聞く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会話の大意をつかむ ・シートの問いに従い、聞き直す ・設問に答える 答える ・ストラテジーなどについて考える ・スクリプトを見ながら再度聞く <p>(2)会話の内容について話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タスクシートの設問を利用する 			
<p>【成績評価の方法】</p> <p>出席を重視し(年授業回数の3分の2以上が必要)、評価は進度に応じて年に数回の平常試験(4回程度)で行う。 詳しくは、授業初めに説明する。</p>	<p>【参考文献】</p> <p>堀歌子・三井豊子・森松映子(共著)『インタビューで学ぶ日本語』（凡人社）</p>			
<p>【教科書】</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語Ⅱb		通 期	2 単位	吉 岡 美 穂
[講義概要・学習目標] このクラスでは、読解を中心に行い、内容を文章で要約する練習を行う。異文化理解をより深く理解し、自分の意見を発表し、ディスカッションに積極的に参加できるように取り組む。	[講義計画] 異文化理解の文献を中心に読解し、それに関する質問に答え、クラスで発表する。小さいグループに分けて意見交換する。			
[成績評価の方法] ・出席・テスト・課題・レポート・授業への参加度、態度。	[参考文献] ・「異文化コミュニケーション・新国際人への条件」古田暁（有斐閣選書）			
[教科書] 資料は教員が準備する。辞書を必ず持参すること。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語 V (上級)	0 1	通期	2 単位	高倉 正行
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>言語として英語の支配圏は、現実の社会よりもネットの世界のほうがはるかに大きいと言える。それゆえ英語を学ぼうと思えば、サイバースペース上の至る所にその機会を得ることができる。</p> <p>アメリカで発明されたインターネットの歴史を学びつつ、ネット上で英語を調べる方法や英語で書かれた情報を入手する方法を取得することを、この講義の目標とする。</p> <p>なお、テキストは下記のものを使用するが、平明な英語で書かれているので速読に重きを置き、学生達自身に内容を発表していただくことにする。時にはテキストを離れ、実際のサイバースペースを体験しながら、ネット上の英語を学ぶことにする。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>テキストの章ごとに行っていくことにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Sputnik 2. The First Computer Network 3. To the Internet 4. The Personal Computer 5. The World Wide Web 6. Netscape 7. Yahoo!-A Guide to Everything 8. The Future <p>(随時アサインメントを与える)</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席、予習、アサインメント、試験を重視する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>授業中に紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>The Story of the Internet (Stephen Bryant, Penguin Readers)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語 V (上級) 洋書を読む (都市伝説アメリカ)	0 2	通期	2 単位	中 島 剛
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>実際の洋書を読むことには、かなり難関な英語の講義の経験をする。本書は、米国の都市伝説各題の「伝説」を消去して「伝説」(下水に伝説(二等)の収集、研究の有名な人物であり、その内容はアメリカ社会を反映するものである。単純に読物としても面白い。その知識や、都市伝説、怪談、ホラーなどの話題を英語で整理して発表する。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>全体を数回に分けて読むことは不可能なので、chapter毎に指定(前、後期)に各部分の4を指定。各文毎の翻訳も、全体の大意を正確に理解を中心として、次回以降のクラス毎に毎回数ページを指定して、次のクラスでその内容を議論してやることにする。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席状況 前期、後期のテスト</p>	<p>[参考文献]</p> <p>なし</p>			
<p>[教科書]</p> <p><u>The Vanishing Hitchhiker</u> Jan Harold Brunvand Norton社 ISBN 0-393-95169-3</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語Ⅴ（上級）	03	通期	2単位	渡邊 眞理子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>日本は戦後様々な面においてアメリカの影響を大きく受けてきた。一方アメリカはどうだろうか。アメリカにおいても日本をはじめ東洋の国々がもたらした影響は少なくない。北京では人々はコーラを飲みリーバイスのジーンズをはいているが、ニューヨークでは人々はAnna Suiでお茶を飲んでいる。このようなアメリカにおける東洋の国々の文化の影響を多岐にわたって取り上げている本をテキストに使用する。たとえば日本のアニメのドラゴンボールやセイラムーンといった最近のものから、忍者や折り紙などの伝統的なものまで取り上げられており、日本文化を再認識することができる。</p> <p>とにかく非常に面白く読める内容である。各自が興味のあるトピックを翻訳し、発表するという形式で授業を進めていく。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Art and Design 2. Books and Literature 3. Film and Television 4. Food and Drink 5. Games and Leisure 6. Ideas and Philosophy 7. Sound and Stage 8. Style and Fashion 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>発表・レポート・出席などを総合評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p><i>Eastern Standard Time: A Guide to Asian Influence on American Culture : From Astro Boy to Zen Buddhism</i> 著者: Jeff Yang, Dina Gan, Terry Hong, A. Magazine 出版社: Houghton Mifflin Company インターネットAmazon.co.jpで廉価で入手できるので、各自で購入すること。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教職概論	01 02	春学期 秋学期	2単位 2単位	林 陸雄
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>1997年の教育職員養成審議会答申を受けて教育職員免許法が改訂された。その改訂ポイントは、教科に関する科目を半減させ、それに替えて教職に関する科目の重視、とくに生徒指導力の向上と教職の使命感の高揚に力点が置かれたことだ。</p> <p>それを受けて、この科目も必修科目として新設されたのである。求められていることは、教職の使命感についての自覚と、教職への志向と一体感の形成・強化である。昨今の青少年が示す様々な教育問題の背景に、教員の在り方が種々取りざたされている。さらにこの困難な状況を克服するためにも、教員の在り方に対する厳しい目が注がれている。</p> <p>子どもの成長を援助し、子どもの成長をもって自己の喜びとする仕事が教職である。そのための基本的な思想・感性・知識・技能を修得していくためのガイドラインとして、この科目が位置づけられている。履修する以上、教職に就くという強い目的意識をもって受講してほしい。</p> <p>各種の学校を訪問し、参観、補助活動も課外に課す予定である。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教職課程とは 2. 求められる教師像 3. 教師の仕事 4. 学級経営1 5. 学級経営2 6. 教科経営1 7. 教科経営2 8. 教科外経営1 9. 教科外経営2 10. 校務分掌 11. 服務 12. まとめ 13. テスト 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>毎回の小レポート、期末考査の結果を総合して行う。 ただし、2/3以上の出席のないもの、遅刻早退の多いもの、授業に積極的に参加しないものは、評価の対象としない。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>授業中に、適宜紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>使用しない</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教育学概論	01 02	春学期 秋学期	2単位 2単位	竹 中 暉 雄
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「教育職員免許法施行規則」で規定されている「教育の基礎理論」のうち、教育の理念並びに教育に関する歴史および思想を内容とする。</p> <p>これまで学校教育だけで12年間以上も教育を受けてきながら、いざ「教育とは何か」と改めて問われると極めて答えにくいものである。教育について考えるためには、人間について考えることから始めなくてはならない。なぜ人間だけ長期にわたる教育が必要なのか、そしてまたなぜそのことが可能なのだろうか。このような疑問に答えるためには、いま急速な発展を遂げつつある脳科学の助けが不可欠となる。</p> <p>その次に出てくるのは「ではどのような人間をつくるのか」という教育理念の問題である。教育の理念は時代とともに、社会とともに変化する。ルネッサンス以降における代表的な教育論者の見解について概観していくが、そのさいにおいても重要なことは、それらの諸見解と時代背景との関係である。</p> <p>教育学の学習において留意しておいてほしいことは、いわゆる決まりきった「正解」というものは存在しないということである。神秘性に満ちた人間についての学問なので、仕方がないことである。講義内容および各自が独自に仕入れた知識を比較検討して、自分自身の教育論を持つようにしてほしい。質問や意見は、質問票ないしE-mail (takenaka@andrew.ac.jp)、あるいはオフィス・アワーで受けつけます。積極的にお願いいたします。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>教育の本質</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教育の一般的定義とその検討 2 人間の教育必要性 3 人間の脳と教育 その1 4 人間の脳と教育 その2 5 人間の脳と教育 その3 6 教育上の人間関係 <p>教育理念の思想史</p> <ol style="list-style-type: none"> 7 近代教育の原理「合自然」 8 ルソーによる「子どもの発見」 9 「合自然」の流れと反「合自然」 10 児童中心主義とデューイ教育学 11 連続の教育と非連続の教育 12 まとめ 13 試験 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>論述試験による。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>教科書で引用文献・参考文献として揚げられているもの</p>			
<p>[教科書]</p> <p>竹中・中山・宮野・徳永『時代と向き合う教育学』ナカニシヤ出版、2003年改訂版 毎回、教科書に対応したレジュメを講義開始前に配布する（遅刻者には終了後）。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教育心理学	01 02	春 学 期 秋 学 期	2 単 位 2 単 位	冷 水 啓 子
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>近年、学校では、不登校やいじめに加え、授業中私語に興じて教師の話の聞かない、無断で立ち歩いたりふざけ合ったりして授業に集中できない、我慢ができず些細なことですぐに切れる、といった児童・生徒の行動傾向が問題視されている。では、このように日常的に起こりうる困難な事態に対し、教師はどのように対処すればよいであろうか。適切に対応するためには、子どもの発達の様相や一般的な教授・学習方法に精通しているうえに、さまざまな発達障害や問題行動への臨床援助に関する基礎的知識・理解やセンスをも併せもつ必要がある。すなわち、平常の授業を円滑に運営するだけでなく、問題の発生を未然に防いだり、起こった問題の原因を究明して解決へ導いたりするための知識・理解や技能、柔軟な判断能力や態度が必要とされるのである。</p> <p>そこで、この「教育心理学」では、生涯発達の観点から「乳幼児、児童・生徒の心身の発達および学習の過程」に関する基礎的理論と教育実践について学び、実践的指導力を身につけるための基礎作りを目指す。</p> <p>なお、これは、教育職員免許法により規定されている「教職に関する科目」の一つとして、本学教職課程で必修とされている随意科目である。授業に関連する補足資料は、コンピュータ、OHC、VTR、印刷物などにより適宜提供する。受講生の主体的・積極的な授業参加を期待している。</p>	<p>1. はじめに</p> <p>2. 生涯発達 1) 生涯発達とは 2) 発達の原理 3) 発達段階理論</p> <p>3. 乳幼児期 1) 乳幼児期における心身の発達 2) 発達障害とその臨床援助</p> <p>4. 児童期・思春期 1) 児童期・思春期の心理発達 2) 児童期・思春期の心理障害と臨床援助</p> <p>5. 青年期 1) 青年期の心理発達 2) 青年期の心理障害と臨床援助</p> <p>6. 全体のまとめ</p> <p>〔但し、授業の進捗状況によってこの計画内容を変更することがある〕</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
<p>主体的・積極的な授業への出席・参加を重視する。学期中、必要に応じて簡単なレポート課題を与える。学期末には論述試験を実施する。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。</p>	<p>藤永保（著）『幼児教育を考える』（岩波新書） 井上健治（著）『子どもの発達と環境』（東京大学出版会） 三浦香苗 他（編）『教員養成のためのテキストシリーズ2 発達と学習の支援』（新曜社） 大村彰道（編）『教育心理学Ⅰ―発達と学習指導の心理学―』（東京大学出版会） 下山晴彦（編）『教育心理学Ⅱ―発達と臨床援助の心理学―』（東京大学出版会） 高橋恵子・波多野誼余夫（共著）『生涯発達の心理学』（岩波新書）</p>			
[教科書]	他			
追って指示する。				

<E・SW・B・L・LE・LI・J生対象>

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教育社会学		通 期	4 単 位	山 内 乾 史
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>本講義は、教育の世界で起きる諸問題を社会的視点から捉えていく方法について検討することを目的とします。教育は自己完結的な閉じたシステムではなく、政治・経済他の社会システムと密接な関わりを持つシステムであり、それ故に教育の世界だけを見つめるのではなく、巨視的な分析方法が必要とされます。本講義では、欧米との比較（特にアメリカ合衆国とイギリス）を通じて、また明治維新以降の流れを歴史的に振り返ることを通じて、現代日本の教育に起きる諸問題を解説していきます。</p> <p>講義は多人数になることが予想されるので、OHPやビデオによる資料提示が多くなると思います。</p>	<p>1. イントロダクション</p> <p>2. 教育社会学とは何か：日英米を比較検討していく基本的枠組みについて</p> <p>3. 日本における学歴社会論（1）～（3）</p> <p>4. アメリカ合衆国の教育史（1）～（3）</p> <p>5. イギリスの教育史（1）～（3）</p> <p>6. 日本における学力低下問題と改革（1）～（3）</p> <p>7. アメリカ合衆国における学力低下問題と改革（1）～（3）</p> <p>8. イギリスにおける学力低下問題と改革（1）～（3）</p> <p>9. 日本における大学改革と教育機会の変化（1）～（2）</p> <p>10. アメリカ合衆国における教育機会とマイノリティ（1）～（2）</p> <p>11. イギリスにおける大学改革（1）～（2）</p> <p>12. まとめ：日英米の教育問題と教育改革</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
<p>成績評価は試験（75%）と授業終了時に課すレポート（25%）によります。具体的な方法については講義の時に指示します。ただし、欠席過多の学生には受講資格を認めない場合があります。</p>	<p>原清治・山内乾史『学力低下（仮題）』ミネルヴァ書房、2004年</p>			
[教科書]				
原清治・山内乾史・杉本均編『比較教育社会学のイメージ』学文社、2004年				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教育法規		春学期	2単位	竹中暉雄
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「教育職員免許法施行規則」で規定されている「教育の基礎理論」のうち、教育の社会的・制度的な事項として教育法規をとりあげる。</p> <p>教育とは本来、年長者と年少者、親と子との間で展開される私的な営みであり、国家や公権力が関与すべき性質のものではなかった。しかし近代公教育制度が成立するに伴い、教育は公的に、つまり制度的、国家的に行なわれるようになり、ここにそれを運用するための教育法規が不可欠なものとなってきた。</p> <p>法令というのは体系的なものである、その学習も体系的・逐条的にすべきではあるが、単調さを避けるために、この講義では主として、さまざまな教育問題にどのような法令が関係しているのか、という視点から論じていく。テキストを使用するが、テキストでカバーできていない、そのつど発生してくる教育問題と法令との関係については、講義の最後に応用問題として取り扱う予定である。</p> <p>質問や意見は、質問票ないしE-mail (takenaka@andrew.ac.jp)、あるいはオフィス・アワーで受けつけます。積極的にお願いいたします。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育法規の体系および種類 2. 憲法の教育条項と教育基本法 3. 義務教育をめぐる諸問題 (1) 4. 義務教育をめぐる諸問題 (2) 5. 学校教育と学習指導要領 6. 指導要録の作成目的 7. 教員の免許・採用制度と研修、経済的待遇 8. 部活動と教員 9. 学級規模と教員定数 10. 教員の義務、体罰問題 <ol style="list-style-type: none"> 11. 応用問題 (1) 12. 応用問題 (2) 13. 応用問題 (3) 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>論述試験による。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>『解説 教育六法』三省堂</p> <p>教科書に掲載の参考文献</p>			
<p>[教科書]</p> <p>竹中・中山・宮野・徳永『時代と向き合う教育学』ナカニシヤ出版、2003年改訂版</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会科・地理歴史科教育法	01	通期	4単位	野尻 亘
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>学校教育現場では、いじめ・不登校・校内暴力・非行・差別などの諸問題に苦悩している。このような状況の中で、中学「社会科」・高校「地理歴史科」の教育や授業は、どのようにあるべきか。</p> <p>単に知識や技能の伝達に留まらず、新しい学力観をふまえた上で、人権教育・平和教育・環境教育・開発教育・国際理解教育といったテーマについて、地理歴史教育の再構築を目指すこととする。</p> <p>この授業は中学校社会科・高校地理歴史科教員免許取得の必修科目です。模擬授業や討論など、演習形式を採用して行います。教員免許取得の希望のない学生が履修しても苦痛となります。そのため、よく注意して履修手続きをしてください。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校における教科教育 陶冶と訓育 2. 地理歴史科の目標 3. 地理歴史科のカリキュラム構成 4. 教育実習と授業実践 5. 授業指導案の作成と成績評価 6. 地理歴史教育と人権学習・同和教育の実践 7. 学校地理教育・歴史教育の目標と課題 8. 生涯学習社会と地理歴史教育 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>指定した書式にもとづく「授業指導案」をレポートとして作成し提出する。このことを単位認定の基礎条件とする。演習形式。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>文部科学省『高等学校学習指導要領』国立印刷局 井原政純『社会・地理・公民科基礎論』多賀出版 永井滋郎・平田嘉三『社会科重要用語300の基礎知識』明治図書</p>			
<p>[教科書]</p> <p>文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』実教出版 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』大阪書籍</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会科・地歴科教育法	02	通 期	4 単位	山 崎 充 彦
<p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>地理・歴史科の教員免許取得希望者の必修単位である。知識の詰め込みに終始すると捉えられがちなこの教科の学習目標は、一体如何にあるべきかに留意しつつ、各自に模擬授業を行ってもらおう。もっぱら教員免許取得希望者を対象とし、模擬授業を中心とした演習形式とするので、教職希望しない者にとっては、苦痛を感じるかもしれない。その点、留意の上、登録履修されたい。</p> <p>なお、担当者の専門との関係上、歴史分野に重点をおきたいとは思いますが、地理分野に主たる関心を持つ者の登録履修も歓迎する。</p> <p>開講当初は、担当者が指導案作成などについて講義するが、この授業は、そもそもが教員免許取得希望者を対象とするものであり、履修者全員が模擬授業担当を義務づけられ、授業への積極的参加を要求される、いわゆる「演習形式」で行う。</p>	<p>〔講義計画〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、各自がそれぞれ学習指導案を作成する。 2、その指導案に基づき、毎回一人に模擬授業を行ってもらおう。(原則50分授業) 3、その際、当日の出席者全員に対して、レジュメとして指導案および当日の授業資料(教科書その他のコピーなど)を配布する。 4、模擬授業終了後、出席者全員で、その授業の問題点について討議する。＝指導案の問題点、模擬授業と指導案との相違点、授業の問題点等々。→次回の模擬授業担当予定者が司会役を務める。 5、当日の出席者は、その模擬授業についてのレポートを、当日ないしは翌週に提出する。 <p>模擬授業担当の日時については、開講当初に相談の上、決める。受講者の人数にもよるが、少数の場合、年に複数回、模擬授業の担当が当たることになるかも知れないので、その点、留意されたい。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>学習指導案の作成、模擬授業の内容、討論への参加、レポートの提出、出席回数、これらにより総合的に評価する。</p> <p>模擬授業の担当は、単位認定の必須条件である。</p> <p>模擬授業の担当日に無断欠席した者は理由の如何を問わず、その時点で「不可」と判定する。</p>	<p>〔参考文献〕</p> <p>文部科学省、『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』、実教出版</p> <p>〔教科書〕</p> <p>教科書は使用しない。</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会科・公民科教育法	01	通 期	4 単位	飯 島 敏 文
<p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>本講義は中学校社会科及び高等学校公民科授業を実践できる基本的知識と能力を身につけることを目標とするものです。</p> <p>社会科学・人文科学の諸領域を習得しただけでは授業実践はできません。生徒の発達段階や生活経験・学習経験を踏まえ、もっとも効果が期待できる教材を選択し、授業過程において生徒にどのような学習活動を行わせるのかということ具体的に構想しなければなりません。そこには常に生徒の公民的資質の育成という中核的な目標が位置づけられていなければなりません。</p> <p>社会科・公民科という教科に対する誤解をとき、社会科・公民科という教科が何のために設けられているのかという原点に立ち返って授業実践を考えていただきたいと思います。情報化社会やニューメディアに対応したこれからの社会科・公民科授業を考えていきましょう。それは皆さんご自身が現代社会を生き抜く力を身につけることにもつながるものです。</p>	<p>〔講義計画〕</p> <p>本講義は通年の講義ですが、主として前期に中学校社会科に関する講義、後期に高等学校公民科に関する講義を予定しています。</p> <p>前期は、昭和22年の社会科成立期から今日に至るまでの社会科を概観し、とくに成立期社会科におけるカリキュラム構成と授業実践について考察します。現代の社会科授業実践を考えるために有効な視点を可能な限り具体的な形で紹介することによって、授業を実践するとはいかなることであるかを解説します。</p> <p>後期は、高等学校公民科の特徴と公民科に含まれる諸科目の特徴とその実践的課題について解説します。</p> <p>前期・後期ともに受講生の皆さんが社会科授業及び公民科授業の学習指導計画を作成することができるように手ほどきをいたします。常に社会の姿を「授業」のレベルで考えることができるような視点を提供していく予定です。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>出席状況、授業内小レポートの内容、及びレポート試験の内容を総合的に評価します。(前期・後期共レポート試験があります)</p>	<p>〔参考文献〕</p> <p>講義内においてその都度紹介します。必要最低限の文献についてはコピーを配布いたしますが、欠席者への再配布はいたしませんのでご了承ください。</p>			
<p>〔教科書〕</p> <p>テキストは指定しませんが、下記図書は必須です。</p> <p>『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』</p> <p>『中学校学習指導要領解説 社会編』</p> <p>『高等学校学習指導要領解説 公民編』</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会科・公民科教育法	02	通 期	4 単位	宮 本 進
[講義概要・学習目標] 21世紀初頭の地球は科学技術、情報技術の進歩、経済活動の多国籍化、地球環境の悪化など急激な変化の最中にある。地球の人口は約61億人、主権国家は190余である。その中で約13億人が1日1ドルで生きようとし、約8億人が飢えに苦しみ、約12億人が安全な水を飲めず、約10億人が読み書きが出来ないなど、すべてが豊かな生き方、暮らしが出来ている訳ではない。日本は経済低迷の最中で、国民は漠とした不安の中にいる。また、地球の幾つかの地域では紛争中であり、日本もそれには無関係ではいられない。社会科・公民科は現代的な課題に向き合う重要な教科だと言える。教員の立場の人間としてどう向き合うのか、生徒達にどう向き合わせさせるのか。これを基本的問題意識として提起しつつ、教科の目的と役割、教育課程の変遷、教育課程の内容や教授方法などを考察しながら社会科・公民科教育の在り方を研究する。講義だけでなく、討論や、模擬授業などを取り入れた参加型の授業にしたい	[講義計画] 1. はじめに＝講義概要など 2. ～ 3. どんないかに生きてるのか 4. 教員の現状 5. ～ 6. 国旗・国歌問題と社会科・公民科教育 7. ～ 8. 戦後の社会科・公民科教育 9. 社会科・公民科教育と社会認識・態度 10. ～ 12. 社会科指導要領の内容と授業 13. 公民科の目標 14. 公民の概念と公民科教育 15. ～ 17. 公民科指導要領の内容と授業 18. ～ 19. 模擬授業の準備と学習指導案の作成 20. ～ 24. 模擬授業による授業研究 25. まとめ 26. テスト			
[成績評価の方法] 出席回数、授業内での発表、小レポート、期末レポートなどを総合して行う。但し2/3以上の出席がない場合は評価しない。	[参考文献] 授業の中で適宜紹介する			
[教科書] 授業ノート・資料などをプリントして配付する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
商業科教育法		通 期	4 単位	松 原 勇
[講義概要・学習目標] 経営革新時代における商業科教員を目指す学生を対象とした高等学校教員免許取得のための必修科目である。現代の商業教育は、国際化・情報化に対応できる基礎学力を土台とした人材の育成が急務である。特に優れた職業倫理を身につけ、「心の充実」「思考力の強化」「高度な知識・技術」等の習得が不可欠である。21世紀に生きる人材は「アイデンティティ」「豊かな人間性」「一人一人の個性」等の生きる力の能力を十分に生かすことを大きな目標にしている。その趣旨を踏まえ、将来教育に携わる者は、常に教育理念を念頭におきながら、商業教育の本質に立脚した姿勢と自覚と責任をもって臨まなくてはならない。本講は、教育者としての人間力を磨くと共に産業経済の現状と将来の商業教育を展望しつつ、教育上の本筋を究明する。特に年間指導計画、毎時の学習指導案の作成、学習指導法、模擬授業など教育者が修得すべき方法論を重点的に網羅して講義する。	[講義計画] 1 商業教育の意義と目的 2 商業教育の変遷 3 現在の高等学校の商業教育 4 商業教育における国際化と情報化 5 教育課程の編成 6 学習指導法（模擬授業の展開） 7 学習指導計画と教育評価 8 教員の資質能力と研修制度 9 職業資格制度と検定試験制度 10 今後の商業教育の展望等			
[成績評価の方法] 主として、出席を厳しく重視して評価する。なお、模擬授業の実践面の評価、期末試験等も勘案のうえ、総合評価とする。	[参考文献] 高等学校学習指導要領解説（商業編）			
[教科書] 教員が用意する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語科教育法 I		通 期	4 単位	島田勝正
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>英語教員志望者を対象とする。英語科教育の基礎理論を概観するとともに、その理論の教育実践への適用を考察する。授業内容は第二言語習得論、英語教育目標論、指導課程論（シラバス論、授業計画）、指導方法論、指導技術論（4技能、文法、語彙）、教材論、測定評価論、学習者論、教師論と多岐にわたる。単に理論の紹介に終始せず明日の教育実践を射程に入れたワークショップを展開する。その中で受講者は学習の促進としての指導は如何にあるべきかを探索することになる。その体験は授業案作成、マイクロティーチングとして具現化される。本講義の主たる目的は、中学校、高等学校、大学等で経験した英語教育や英語学習を基盤に作り上げた「思い込み(belief)」から解放し、望ましい英語授業のあり方を自己評価、自己点検するための視点、観点を提供することにある。問題意識をもって授業に臨んでほしいので、毎回「課題」提出を課す。課された分担作業は責任をもって果たすこと。授業は教科書の指定ページを読み、課題を終了していることを前提にすすめる。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>1. ガイダンス 2. 教授・学習・評価（教授の役割） 3. 第二言語習得論1（習慣形成理論と創造的構築） 4. 第二言語習得論2（学習転移） 5. 第二言語習得論3（誤答訂正） 6. 第二言語習得論4（インプット仮説） 7. 第二言語習得論5（形式教授の役割） 8. 言語能力の分類 9. 文法教授（意識化活動） 10. 第二言語習得論6（有標性理論、教授可能性理論） 11. 目標論1（コミュニケーション能力） 12. 目標論2（学習指導要領） 13. コミュニケーション方略 14. 定期試験 15. コミュニカティブアプローチ1（機能シラバスと文機能分析） 16. コミュニカティブアプローチ2（指導法） 17. スピーキング（情報差活動） 18. リスニング（背景知識の活性化） 19. リーディング（発問の種類と方法） 20. ライティング（談話） 21. 語彙（記憶術） 22. 授業案、授業分析 23. 観点別評価と評定（規準と基準） 24. テスティング1（妥当性、信頼性） 25. テスティング2（テスト項目改善） 26. テスティング3（技能判断） 27. テスティング4（項目分析） 28. 定期試験</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>* 得点配分は以下の通り。(1) 課題1回3点×12回=36点 (2) レポート24点 (3) 定期試験40点 * 次のいずれかに該当する場合は単位を認定しない。(1) 原則として各学期2回を越えて欠席した場合 (2) 定期試験を無断で欠席した場合 (3) レポートを提出しない場合</p>		<p>[参考文献]</p> <p>1. 白畑他(著)『英語教育用語辞典』大修館書店 1999 2. Richards, J., J. Platt and H. Platt (eds.) <i>Longman Dictionary of Language Teaching and Applied Linguistics: Third Edition</i>. Longman. 2002. 3. 青木(編)『英語授業実例事典 1, II』大修館書店 1990, 1994 4. 山田、望月(編)『私の英語授業』大修館書店 1996 5. 青木(編)『英語授業の組立て』開隆堂 1990</p>		
<p>[教科書]</p> <p>教科書：青木(編)『新しい英語科教育法』現代教育社 2002 Course Notes：島田勝正(編著) <i>Methods of Teaching English as a Foreign Language: Testing of Teaching (Third Edition)</i> (ガイダンス時に配布する。)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語科教育法II		通 期	4 単位	島田勝正
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>1. 「英語科教育法I」の復習をする。 2. 「英語科教育法I」で得た知見を基盤に、英語科指導のシミュレーションを行う。具体的には、授業案作成→授業提案→授業観察→授業批評→授業案の改善の過程を通して、英語授業の構成能力を練磨する。 3. 観点別評価、目標準拠評価等、評価のあり方を検討するとともに、評価の基礎データを得るテスト作成能力を養成する。 すべての授業は、単に理論の紹介に終始せず、「教育実習」を射程に入れた課題中心のワークショップとする。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>1. ガイダンス 2-28. 毎回の授業を(1)「英語科教育法I」の復習、(2)英語の授業研究、(3)評価のあり方の3区分で行う。 (2)については、春学期は特にテーマを設定しないが、秋学期はテーマを特定する。 (3)については、春学期は評価全般を、秋学期はテスト項目改善を取り扱う。 受講生全員にプレゼンテーションを課す。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>* 得点配分は以下の通り(1)授業参加48% (2)プレゼンテーション20% (3)レポート32% * 次のいずれかに該当する場合は単位を認定しない。(1)原則として各学期2回を越えて欠席した場合 (2) 授業提案をしない場合 (3) レポートを提出しない場合</p>		<p>[参考文献]</p> <p>1. 白畑他(著)『英語教育用語辞典』大修館書店 1999 2. Richards, J., J. Platt and H. Platt (eds.) <i>Longman Dictionary of Language Teaching and Applied Linguistics: Third Edition</i>. Longman. 2002 3. 青木(編)『英語授業実例事典 I, II』大修館書店 1990, 1994 4. 山田、望月(編)『私の英語授業』大修館書店 1996 5. 青木(編)『英語授業の組立て』開隆堂 1990 6. Heaton, J. B. <i>Writing English Language Tests: New Edition</i>. Longman. 1988.</p>		
<p>[教科書]</p> <p>教科書：青木(編)『新しい英語科教育法』現代教育社 2002 Course Notes：島田勝正(編著) <i>Methods of Teaching English as a Foreign Language: Testing of Teaching (Third Edition)</i> (英語科教育法Iで使用したもの)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
情報科教育法		通 期	4 単位	藤間 真
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>ますます進展する情報化社会にあって、高等学校における普通教科・専門教科「情報」においては、</p> <p>①課題や目的に応じて必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況を踏まえて発信・伝達できるような情報活用の実践力、</p> <p>②情報手段の特性の理解、情報の適切な処理、自らの情報活用を評価・改善するための科学的な理解、</p> <p>③社会生活の中で情報や情報技術がもつ役割と影響を理解し、情報モラルと情報に対する責任を自覚し、情報社会の創造に参画する望ましい態度を系統的・体系的に習得・育成させることが求められている。</p> <p>この授業においては、その教育目標を達成するために、教科構造、ねらい、内容、指導法について系統的・体系的に理解するとともに、授業実施に当たって必要とされる指導計画、教材研究、授業設計、実施、評価、改善等に関する理解・能力を体験的に習得する。授業の形態は、講義、演習、模擬授業を組み合わせ展開する。</p> <p>なお、受講生への連絡は大学のメールを用いるので最低限の操作はできるようになっていることを前提とする。</p>		<p>[講義計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ IT革命の現状と展望 ・ 初等中等教育における「情報」教育の役割と課題 ・ 「情報」の教科構造 ・ 学習指導要領における普通教科「情報」の目標と内容 ・ 学習指導要領における専門教科「情報」の目標と内容 ・ 「情報」の授業の実際 ・ 年間指導計画の作成 ・ 単元指導計画の作成と内容の取り扱い ・ 教材研究の実際 ・ 学習指導案の作成 ・ 模擬授業及び評価と改善 ・ まとめ 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>講義への参加、課題への取り組み、期末課題、模擬講義等を総合して評価する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>情報科教育法 岡本敏雄 丸善 情報科教育法 大岩元 オーム社 情報科教育法 河村一樹 彰国社 情報科教育法 本村猛能 学術図書出版</p>		
<p>[教科書]</p> <p>高等学校学習指導要領解説 情報編 開隆堂出版</p>		その他講義の進行状況に応じて指示する。		

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
福祉科教育法		通 期	4 単位	林 陸雄
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>高齢化社会が進展する今日、社会福祉の役割は多様化し増大しつつある。そのことに伴って、社会福祉についての基本的認識を深め、適切な福祉サービスを提供するための基本的な知識・技術を高めることが広く期待されている。さらに、多様化する社会福祉の課題を主体的に解決し、社会福祉の増進に寄与する人材の育成は重要な課題でもある。</p> <p>高等学校福祉科の教育目標、内容、指導法について系統的に理解し、授業実施に当たって必要とされる指導計画、教材研究、授業設計、実施、評価、改善等に関する理解・能力を体験的に修得する。授業の形態は、講義、演習、模擬授業等を組み合わせ展開する。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>春学期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 福祉科教育の意義 2. 福祉科の学習指導 3. 福祉科の教育課程 4. 福祉科の教材研究と評価 5. 福祉科授業の方法と社会福祉の理解 <p>秋学期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 福祉科教育法の実際 1 2. 福祉科教育法の実際 2 3. 福祉教育の歴史 4. 福祉科教諭の資質 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>毎回の小レポート、期末考査の結果を総合して行う。 ただし、2/3以上の出席のないもの、遅刻早退の多いもの、授業に積極的に参加しないものは、評価の対象としない。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>授業中に、適宜紹介する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>硯川眞旬・佐藤豊道・柿本誠 編著 『福祉科教育法』 ミネルヴァ書房</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
道徳教育の研究		秋学期	2 単位	徳 永 正 直
[講義概要・学習目標] <p>近年マスコミを販わしている未成年者による凶悪犯罪や、援助交際、オヤジ狩り、学級崩壊、いじめ等の子どもたちの「荒れ」に対処するために、道徳教育のなお一層の充実強化が求められている。しかし、「道徳」授業の評判はあまりよくないようであり、文部科学省主導の「心のノート」にもいくつかの問題点がある。そこで何故「道徳」授業がつまらないのかを考え、子どもたちの問題行動の背景と原因をアリス・ミラーの「反教育学」をひとつの手がかりとして考察し、道徳性発達理論に依拠した「道徳」授業の可能性を、教育的タクト論の視点から検討する。</p> <p>とかく問題が多いとされる「道徳」授業や道徳教育の課題設定のあり方について、各自が自分自身の見解を持つようになることが目標である。</p>	[講義計画] <p>①「教育」の重要性と危険性 ②「道徳」授業批判（「心のノート」の意義と問題点を含む） ③子どもの問題行動を考える。1980年以後の問題行動の変遷 ④アリス・ミラーの「反教育学」の立場から ⑤道徳教育の課題 学習指導要領の解説と問題点 ⑥道徳性発達理論 ピアジェ、コールバーグ等 ⑦ジレンマ資料に基づく「道徳」授業の意義と問題点 ⑧実際の授業の展開（ビデオ視聴） ⑨教育的タクトによる「道徳」授業の可能性 ⑩賞罰問題と子どもの人権 ⑪この講義の総括と今後の課題の提示</p> <p>なお、④⑥⑩についてはそれぞれ二時間かけて解説する。</p>			
[成績評価の方法] <p>定期試験で評価する。</p>	[参考文献]			
[教科書] <p>徳永・堤・宮嶋・林・榊原著『道徳教育論—対話による対話への教育』（ナカニシヤ出版、2003年）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
特別活動論	01	春学期	2 単位	小 島 孝 敏
[講義概要・学習目標] <p>第3次の教育改革と言われる現在の改革は、学校週5日制の完全実施や、「生きる力」と「ゆとり」をキーワードに、学びの力を育む・“心の教育”を目指している。現場では、創意工夫を重視した新学習指導要領が、順次に行なわれ教育改革の柱とされる「総合的な学習の時間」もスタートした。それを生かし支える教育活動が特別活動である。</p> <p>子どもたちの調和のとれた豊かな人間形成に係わる資質が特別活動の目指すもので、主体的学習の基盤である。全ての学習を統合・発展する特別活動の充実が、「特色ある教育・学校づくり」に欠かせない。「学校行事・児童・生徒会活動、学級活動、クラブ活動」は、自主的な集団活動を通じた生活体験が有効で、重要な役割を果たしている。特に、現代社会における閉ざされがちな子どもたちには、生活経験を開き、社会関係能力の向上や改善が求められている。そのため、まず教師自身が目標の諸能力を獲得する必要があり、指導上の「理論と実践力」を身につけなければなりません。</p> <p>この授業では、受講生自らの社会関係能力を涵養すると共に、特別活動の教育目標と内容を実践する場となります。地域の学校行事等に参加し、観察・部分実習することで実際面での理解を深め、併せて大学と地域との連携を深める目的で行います。</p> <p>従って、講義教室が学級活動そのものとなり、全て自主的なボランティアサービで運営します。具体的には、「各校園の特色ある取組」の学習や、教育実習前のプレ演習を兼ねた「現場訪問や交流」。見学・観察・補助活動等の「実地体験学習」や、班別グループワークでの「ケーススタディ」や「プレゼンテーション」。小学生を迎えて、バリアフリー関連の「大学探検キャンパスガイド」。中学生対象の「進路講話や進路グループ相談活動」等。地域と連携した現地実践活動を多く採り入れます。</p> <p>限られた授業回数の中で集約的に展開するので、全出席を守り遅刻や早退のないことが望ましい。</p>	[講義計画] <p>1、○授業びらき：オリエンテーション。 ① 学習計画・グループ班分け等。 ② 特別活動の内容と目標。</p> <p>2、○学校週5日制と新学習指導要領。 ① 大阪の教育改革の現状と課題。 ② 総合的な学習活動との関連。 ～（国際化・環境問題・少子高齢化社会等）。</p> <p>○教育課程と各領域別のポイント。 【学校行事・クラブ活動・学級活動・生徒（児童）会活動】。</p> <p>3、○各各校園の特色ある教育の事例～「あんな学校・こんな学校」VTR等。 ○総合的な学習の演習～特色ある活動の取組と実践例・ゲスト講話等。 ○実地体験学習・交流活動～見学・観察・補助活動・キャンパスガイド・参観・進路指導講話の発表・進路指導相談等。</p> <p>4、○班別プレゼンテーション・評価とまとめ。</p> <p>5、○テスト。</p> <p>☆課題レポート。 実地体験活動のうち、具体的な内容について一つ以上のプログラムに参加し、観察補助活動を行う。その模様をレポートして提出する。書式は別に指定する。</p>			
[成績評価の方法] <p>出席状況、VS活動や発表、授業内での小レポート、期末レポートの結果等を総合して行う。但し、2/3以上の出席がなければ評価はしない。</p>	[参考文献] <p>授業の中で適宜紹介する。</p>			
[教科書] <p>「学級便り」・資料等の必要なプリント類は、その都度配付する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
特別活動論	0 2	秋学期	2 単位	宮 本 進
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>21世紀初頭の地球は科学技術、情報技術の進歩、経済活動の多国籍化、地球環境の悪化など急激な変化の最中にある。また、幾つかの地域では紛争中であり日本もそれに無関係ではいられない。さらに、少子化、核家族化が進むなかで、集団活動や人間関係をつくることが不得意な生徒が増加していると言われる。これが生徒達の問題状況を生む背景ともなっている。特別活動は教科指導とともに教育課程に位置づけられている。その内容としてはホームルーム活動（中学校では学級活動）・生徒会活動・学校行事から構成される。目的は「集団や社会の一員としての態度を養うとともに、自己を生かす能力を養うこと」とされる。受講生自らがこの力をどう養うのかを提起しつつ、それぞれの内容について具体的な諸実践を考察し、特別活動のあり方を研究する。討論等を取り入れた参加型の授業にしたい。</p>	<p>1. はじめにー講義計画など 2. 戦前の特別活動 3. 指導要領における特別活動の目標と内容 4. ～ 6. 学級（ホームルーム）活動の実際とその基本的視点 7. ～ 8. 生徒会活動の実際とその基本的視点 9. ～ 10. 学校行事の実際とその基本的視点 11. 必修クラブの廃止と部活動の意義 12. ボランティア活動の意味と意義 13. まとめとテスト</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
出席回数、授業内での発表、小レポート、期末レポートなどを総合して行う。但し2/3以上の出席がない場合は評価しない。	授業の中で適宜紹介する			
[教科書]				
授業ノート・資料などをプリントして配付する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教育方法学	0 1 0 2	春学期 秋学期	2 単位 2 単位	冷 水 啓 子
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>この「教育方法学」では、子どもが知的好奇心や探求心をかき立てられながら主体的に学び、学ぶ楽しさ・充足感を味わうことのできる学習とは何かを考える。新しい学習指導要領では、「生きる力」の育成が重視されているが、それは「自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力」といった側面を持つ。したがって、ここでは、そのような能力を育成するための「教育の方法および技術」に関する基礎的理論と授業（教科学習および総合的な学習の時間）でのその活用法について学び、実践的指導能力を培うべき基盤作りを目指す。</p> <p>具体的には、はじめに、教授・学習活動および教育測定・学習評価に関する基礎的理論を概観し、子どもの学習意欲を促進させる効果的な教授・学習方法や教育メディアの特徴を学ぶ。つぎに、子どもの年齢や個性に即した学習過程を支援するためのコンピュータの教育利用を取り上げ、コンピュータ実習を通じてその実態を体験的に理解する。さらに、4年次に実施される教育実習では、ここで各自が習得した新しい教育メディアや教授・学習法を活用し、その効果を実際に確認してほしい。</p> <p>なお、これは教育職員免許法により規定されている「教職に関する科目」の一つとして、本学教職課程で必修とされている随意科目である。授業に関連する補足資料は、コンピュータ、OHC、VTR、印刷物などにより適宜提供する。受講に際し、各自 Word や Excel などの基本的操作を習得しておくことが望ましい。受講生の主体的・積極的な授業参加を期待している。</p>	<p>1. 教授・学習活動 1) 学習とはなにか ①条件づけ ②認知理論と観察学習 2) 学習と認知：推理と問題解決 3) 学習への動機づけと学習意欲：知的好奇心と内発的動機づけ 2. 教授・学習過程 1) 授業における教授・学習過程 2) 個人差と学習指導 3. 教育測定と学習評価 1) 教育測定 2) 学習評価 3) 心理テストの利用 4. コンピュータの教育利用：その理論と技法（コンピュータ実習を含む） 1) コンピュータの教育利用に関する諸問題 2) インターネットの利用 3) コンピュータを活用した報告書の作成 5. 全体のまとめ</p> <p>〔但し、授業の進捗状況によってこの計画内容を変更することがある〕</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
主体的・積極的な授業への出席・参加を重視する。学期中、必要に応じて簡単なレポート課題を与える。学期末には論述試験を実施する。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。	<p>波多野誼余夫・稲垣佳世子（共著）『人はいかに学ぶかー日常的認知の世界ー』（中公新書） 情報教育学研究会 他（編）『インターネットの光と影』（北大路書房） 三浦香苗 他（編）『教員養成のためのテキストシリーズ2 発達と学習の支援』（新曜社） 大村彰道（編）『教育心理学Ⅰー発達と学習指導の心理学ー』（東京大学出版会） 下山晴彦（編）『教育心理学Ⅱー発達と臨床援助の心理学ー』（東京大学出版会） 多鹿秀継（著）『教育心理学ー「生きる力」を身につけるためにー』（サイエンス社） 梅本堯夫 他（編）『心理学ー心のはたらきを知るー』（サイエンス社） 他</p>			
[教科書]				
追って指示する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
生徒指導法	01	春学期	2 単位	宮 本 進
〔講義概要・学習目標〕 21世紀初頭の地球は科学技術、情報技術の進歩、経済活動の多国籍化、地球環境の悪化など急激な変化の最中にある。幾つかの地域では紛争中であり日本もそれに無関係ではいられない。また、日本経済は低迷中である。生徒達は将来への予測が難しく、目標が見えにくい。特に、将来の進路への漠とした不安の中にある。それが生徒達の種々の問題状況を生む背景ともなっている。生徒指導は教科指導以外の指導のことであり、その内容は学業指導・進路指導・個人的適応指導・社会性指導・余暇指導・健康、安全指導などの領域がある。究極の目的は「自らの生き方を構築する自己指導力の育成」にあると言える。受講生自らがこの力をどう養うのかを提起しつつ、進路指導の領域に重点を置きながら各領域について具体的な諸実践を考察し、生徒指導のあり方を研究する。討論等を取り入れた参加型の授業にしたい。	〔講義計画〕 1. はじめに - 講義計画など 2. 教育の原点と生徒指導 3. 生徒達を取り巻く社会状況と生徒指導 4. どんな教員に 5. 個人的指導力と組織的指導力と生徒指導 6. ~ 8. 生徒指導の実際と原理・原則 9. ~ 12. 進路指導の実際と原理・原則と生徒指導 13. まとめとテスト			
〔成績評価の方法〕 出席回数、授業内での発表、小レポート、期末レポートなどを総合して行う。但し2/3以上の出席がない場合は評価しない。	〔参考文献〕 授業の中で適宜紹介する			
〔教科書〕 授業ノート・資料などをプリントして配付する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
生徒指導法	02	秋学期	2単位	辻 川 信 孝
〔講義概要・学習目標〕 今、学校は様々な問題を抱えている。いじめ、不登校、学級崩壊、校内暴力、高校中退など生徒指導上の問題が多発し、学校教育のあり方が問われている。一方、新しい教育のあり方が議論され、個性重視、生きる力の育成、学校週5日制への対応等、生徒指導の新しい課題も指摘され、教育改善の取り組みがすでに始まっている。 このような状況の中で、教育実践者に、これら生徒指導上の問題の本質をとらえる目と個々の子どもに必要な援助方法を身につけることが求められている。本授業では、学校現場の事例を中心に、参加型の授業を進めて行きたい。事例から、問題の本質を見つけ、自分なりの考えをまとめ、グループワークにより、問題解決に向けての考え(法則性)を習得してもらいたい。 併せて、数多くの事例に接することにより、適切な対応(生徒指導の技術)と子どもたちに接する姿勢(生徒指導の心)を学びとってほしい。	〔講義計画〕 1. 生徒指導とは ①授業計画と進め方 ・子どもたちの状況と生徒指導のあり方 2. 事例研究(学校現場の実践から学ぶ) ①校則・生徒心得 ②いじめ ③不登校 ④授業妨害・学級崩壊 ⑤校内暴力 ⑥性に関する問題行動 3. 求められる生徒指導 ①子どもたちへのかかわり方 ②楽しい授業づくり ③生き方としての進路指導(職場体験学習) ④学級経営に生かせるカウンセリングの演習 ⑤地域と一体の子育て支援活動 4. まとめ			
〔成績評価の方法〕 出席状況、期末の最終レポートの結果を総合的に評価して行う。ただし、2/3以上の出席がなければ評価しない。	〔参考文献〕 授業の中で適宜紹介する。			
〔教科書〕 毎時間、プリントを配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教育相談	01 02	春学期 秋学期	2単位 2単位	林 陸雄
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>中央教育審議会の答申に示された目標「『生きる力』を身に付け、新しい時代を切り拓く積極的な心、正義感・倫理観や思いやりの心など豊かな人間性をはぐくむ」方策と呼応するのが、教員免許法の改定であり、新設された必修科目「教育相談」である。</p> <p>現代社会の諸矛盾は直接・間接に子どもたちの生活に影響し、子どもたちを強いストレス下においている。その結果として、様々な神経症や心身症が小学生段階から現出している。これらの諸現象は、本人または家族に起因するとみられ勝ちであり、いっそう子どもたちを追い詰め苦しめている。</p> <p>子どもたちが抱え込んでいる諸問題を教育相談という観点からとらえ直し、適切な支援・援助をする窓口としての機能を学校教育相談活動として位置づけたい。その機能を遂行するための基礎・基本について概説する。履修する以上、必ず教職に就くという強い目的意識を持って受講すること。</p> <p>なお、より理解を深めるために体験学習も採用する予定である。教育相談機関での参観と実習も課外プログラムとして組む予定である。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業びらき・生徒指導・教育相談とは 2. 生徒指導の体制・教育相談の体制 3. 問題の把握・問題の理解1 4. 問題の把握・問題の理解2 4. 教師・生徒関係 5. カウンセリング1 6. カウンセリング2 7. カウンセリング3 8. カウンセリング4 9. 関係機関との連携 10. 学校不適応・いじめと孤立 11. 非行・勉強嫌い・無気力 12. 神経症・心身症 13. テスト 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>毎回の小レポート、期末考査の結果を総合して行う。 ただし、2/3以上の出席のないもの、遅刻早退の多いもの、授業に積極的に参加しないものは、評価の対象としない。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>授業中に、適宜紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>高野清純 監修 佐々木雄二 編 『図でよむ心理学 生徒指導・教育相談』 福村出版</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
同和教育論	01	通 期	4単位	黒 田 伊 彦
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「21世紀は人権の世紀である。」といわれている。「人権教育のための国連10年」の最終年となり、その総括と新たな取り組みが問われている。 また、「人権教育及び人権啓発の推進法」も実施され、人権教育の広がりや深さを支える同和教育のあり方が問われている。</p> <p>春期は、部落への差別偏見の由来や今も部落差別が続いている要因、部落の起源や部落差別への闘いの歩みから、部落へのマイナスイメージをプラスイメージに転換していく事実と視点を明らかにする。</p> <p>秋期は、同和教育の歩みから融和教育、同和教育、解放教育の違い。「いじめ」を克服する同和（解放）教育のあり方及び部落悲慘史論・低位性論を克服する部落問題学習のあり方を考察し、部落問題の教科書記述批判や学習教材、集団主義と仲間づくり、学力保障と進路保障、反戦平和教育と部落問題など、反差別・人権教育の現状と方向性を明らかにする。</p> <p>教員採用試験の同和・人権教育関係問題の演習を行う。 教科書、補充プリント、映像資料を用いる。</p> <p>春期は島崎藤村の「破戒」の課題研究と読書感想文。原作と映画との比較についてのレポート提出を課す。 秋期は「いじめ」を克服する教師のあり方についての資料によるレポートを課す。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>〈春期〉</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 映画「夜明けをめぐして」と「人権教育のための国連10年」で培うものから、同和（解放）教育のあり方を考える。 (2) 部落差別を支えるケガレ意識の由来と日常性 (3) 気づいていない部落差別－「いじめ」「ヤブ医者と解体新書」等 (4) 部落差別の本質－部落差別が今も続いている理由 (5) 部落の起源－近世封建社会の形成と「かわた」 (6) 「」－一向一揆と近世封建社会の賤民制 (7) 部落差別との闘い－洗染一揆 VTR「触れ書き一揆」 (8) 洗染一揆の学習教材化、劇、史跡調査など (9) 解放令と身分差別の再編成－部落差別と天皇制 (10) 映画「破戒」(119分)の前半 (11) 映画「破戒」の後半、スライド「破戒の風土－藤村と部落問題」 <p>〈秋期〉</p> <ol style="list-style-type: none"> (12) 西光万吉と全国水平社－VTR「よき日のために」 (13) 戦争と全国水平社－西光万吉の皇産主義 ・松本治一郎の「世界の水平運動」批判 (14) 部落解放の方策と「わた子を起こすな論」批判 (15) 戦前の融和教育－伊東茂光と崇仁教育 「同和」の語源と戦時の同和教育 (16) 戦後の同和（解放）教育の歩みと人権総合学習 (17) 「いじめ」の原因とそれを克服する同和（解放）教育と教師のあり方。 (18) 部落問題学習の基本的視点－部落悲慘史論の克服を「教科書無償化を勝ちとった部落の子供たち」の教材から考える。VTR「天気になあれ」 (19) 差別と偏見－VTR「青い目、茶色い目」 (20) 差別と差別意識の働き－差別事象の共通性 (21) 教員採用テストの人権・同和教育問題演習 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>春期はテストと「破戒」に関するレポートと出席点で評価する。 秋期はテストと「いじめ」に関するレポートと出席点によって評価する。 出席を重んじる。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>黒田 伊彦(著) 『部落史紀行』 (拓植書房新社) 中野 陸夫・池田 寛・中尾 健次・森 実(著) (解放出版社) 『人権教育をひらく 同和教育への招待』 (阿吽社) 藤田 敬一(編) 『「部落民」とは何か』 (阿吽社)</p>			
<p>[教科書]</p> <p>黒田 伊彦(編著) 『部落問題・人権・同和教育教材集』 (拓植書房新社)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
同 和 教 育 論	0 2	通 期	4 単 位	寺 木 伸 明
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本講義では、まず同和教育とはどのような教育をいうのかを説明し、そしてそもそも同和教育は必要なのか、ということについて共に考えてみたい。</p> <p>次に、現在、部落の子供たちをとりまく、生々しい差別の実状について、ビデオなどを見ながら理解を深めていきたい。そうした現実を踏まえて、現在、小学校・中学校・高校でどのような同和教育の実践が行われているのかを説明する。その際、中学校と高校の先生にゲスト講師としてきていただき、教育現場での取り組みの現状を報告していただく予定である。</p> <p>つづいて、同和教育の歴史、部落問題学習の実際の進め方などについて、最近の研究成果を踏まえて講義する。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 同和教育とは何か 2 同和教育は必要か 3 被差別部落の子供をとりまく差別の現状 4 中学校における同和教育の実践（ゲスト講師予定） 5 高校における同和教育の実践（ゲスト講師予定） 6 同和教育の歴史 7 部落問題学習指導の実際 8 同和教育の成果と課題 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期のレポートおよび学年末の試験の成績を基本にして出席点（適宜、出席カードに簡単な感想を書いてもらう）を加味して総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>稲垣有一・寺木伸明・中尾健次『部落史をどう教えるか』解放出版社 寺木伸明・野口道彦編『部落問題論への招待 資料と解説』解放出版社</p>			
<p>[教科書]</p> <p>中野陸夫・池田寛・中尾健次・森実『同和教育への招待』解放出版社</p>				

<SW生対象>

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
文 化 社 会 学		秋学期集中	4 単 位	北 川 紀 男
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>文化は人間にとって第二の本能であるといわれるほど、人間と文化は不可分の関係にある。それ故に、人間の社会を研究する社会学にとって、文化の研究は欠くことのできない研究課題である。最初に、文化社会学の学説史を概観し、次いで人間と文化との間に存在する根源的な関係に立ち戻って、文化の概念を尋ね、文化は社会によって制約されると同時に社会を制約するという、すぐれて社会的事象であることを明らかにする。「歌は世につれ、世は歌につれ」とか「処変われば、品変わる」とは、文化と社会の関係を巧くいいて、社会的にみて興味ある表現である。</p> <p>以上の基礎的な考察を踏まえて、後半は、複雑多岐に分化し、目まぐるしく変転する現代文化の動向を解明するために、「大衆化」、「国際化」、「情報化」、「共生化」の視点にたつて、批判的に考察をすすめてみたい。</p> <p>現代文化は、複雑かつ激しく変転しており、人びとはともすれば無批判的に追従しがちであるが、この講義を通じて、現代文化を理解する自らの視座を学びとって欲しい。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> ①イントロダクション ～社会的認識について～ ②社会学における文化の研究 ～歴史と方法論～ ③文化の概念 ～シンボル・意味・価値～ ④文化と社会規範 ～規範・社会化・タブー～ ⑤生活文化 ～生活様式としての文化～ ⑥文化と文明 ～文明社会の諸問題～ ⑦知識の社会学 ～知識・イデオロギー・科学～ ⑧大衆化と文化 ～大衆文化・被操作性～ ⑨国際化と文化 ～民族文化・国民文化・異文化間コミュニケーション～ ⑩情報化と文化 ～情報化社会・ニューメディア～ ⑪共生化と文化 ～高齢者・障害者・ジェンダー～ ⑫文化変動と社会変動 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>成績評価は、課題レポートと期末試験に基づいて総合的におこなう。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>参考文献については、学期はじめに「文化社会学参考文献リスト」として配布するので必ず受け取ること。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>北川紀男『文化社会学研究』1999年（八千代出版）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本近代史		春学期集中	4単位	佐賀 朝
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本講義では、「近代大阪の都市社会史」というテーマのもと、近代の巨大都市である大阪を対象に、その社会構造の分析を試みる。 特に、①都市住民の生活実態やそこで取り結ばれる多様な社会関係を具体的に明らかにすること、②巨大都市をノッペラボーなものとして捉えるのではなく、その構成要素であるさまざまな地域社会の特色や個性に注目すること、③フィールドワークや聞き取りも含めたさまざまな史料を多面的に活用し、分析すること、などを重視したい。</p> <p>まず前半では、明治期の都市内の地域社会として、遊廓、貧民窟と盛り場、工場地域などを取り上げて、その社会構造を分析していく。後半では、大正～昭和戦前期の都市社会について、米騒動や住宅問題などの都市社会問題、都市における「俠客」（きょうかく）の役割、大阪の町内会と学区、などを取り上げて論じていく。</p> <p>また、大阪の歴史に関する博物館の見学や大阪のまちを歩くフィールドワークも企画する。</p> <p>全体を通して、人間が生活・労働をいとなみ、文化が創造される場である地域社会の構造とその変化を的確に捉える方法を学び、現代の地域社会が抱える課題に向き合うための基本的な視点を獲得することを目標とする。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>おおむね以下のようなテーマを論じる予定。</p> <p>明治期大阪の都市内地域 遊廓と地域社会—松嶋遊廓の成立— 長町と千日前—貧民移転問題を素材に— 工場と地域社会—造幣局を素材に—</p> <p>米騒動の勃発と方面委員制度の発足・展開 日本橋「裏長屋」の生活と不良住宅地区改良事業 大正～昭和期の「俠客」と都市社会 住宅問題と借家争議 大阪の町内会・学区と地域支配</p> <p style="text-align: right;">ほか</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席、レポート、定期試験などにより総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>原田敬一『日本近代都市史研究』（思文閣出版、1997年） 広川禎秀編『近代大阪の行政・社会・経済』（青木書店、1998年） 芝村篤樹『日本近代都市の成立—1920・30年代の大阪—』（松籟社、1998年） 佐藤信・吉田伸之編『都市社会史』（山川出版社、2001年）</p> <p>以上のほか、授業のなかで随時、提示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>随時、プリント等を配付する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
労働経済論		通 期	4単位	大 西 祥 恵
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>これから大学を卒業し、仕事をするようになる人にとって、一番の関心は採用に関することかもしれません。しかし、使用後の昇進・昇給、そして退職といった仕事にまつわるイベントがどのように決定されているかについてこそ興味を持って欲しいと思います。この講義は大卒の雇用管理を中心に進めていきます。</p> <p>現在の日本の雇用管理、なかでも報酬に関する側面は激変しており、今後の変化に対応するためにも諸外国の状況も含めて理解することが学習する上での目標となります。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>春学期は、仕事を通じてキャリア形成や報酬管理がどのように行われているのか、大企業ではたらく男性のキャリアを、日本と外国の比較を通じてあきらかにしていきます。</p> <p>秋学期には、中小企業、女性、中高年といった、様々なグループの特質に話を広げていきます。</p> <p>詳しい講義計画はホームページに記載します。 http://www.geocities.co.jp/CollegeLife-Lounge/7868/momo/2004.html （社会学部の「関連リンク」からアクセスできます）</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>試験、授業中に行う小テスト、および出席態度。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>講義中に指示します。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>『仕事の経済学 第2版』 小池和男著、東洋経済新報社、1999年（3200円） 教科書は、毎回授業のときに持ってきて下さい。</p>				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
学校図書館論I (学校経営と学校図書館)		春学期	2単位	志保田 務
<p>[講義概要・学習目標] 学校図書館に関する総論である。学校図書館について総合的に把握するとともに、「司書教諭科目」の基礎科目という視点から学んで行く。「講義計画」に記したよう講義を展開する。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学校経営と学校図書館 (総論) 2 学校図書館と法規・基準 (1) 3 学校図書館と法規・基準 (2) 4 学校図書館の管理運営 (1) 5 学校図書館の管理運営 (2) 6 学校図書館の管理運営 (3) 7 司書教諭、学校司書の働き 8 学校図書館の授業への寄与 (1) 9 学校図書館の授業への寄与 (2) 10 学校図書館の授業への寄与 (3) 11 学校図書館をめぐるネットワーク (1) 12 学校図書館をめぐるネットワーク (2) 13 まとめ (テスト) 			
<p>[成績評価の方法] レポートとテストによる</p>				
<p>[教科書] 山本順一編著『学校経営と学校図書館』学文社 2002年 1800円 (大学生協で購入すること)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
学校図書館論II (学校図書館メディアの構成)		秋学期	2単位	志保田 務
<p>[講義概要・学習目標] 本科目は、学校図書館法のもとの学校図書館司書教諭講習科目「学校図書館メディアの構成」にあたる。次のような概要と学修目標を有する。 <内容> 1) 学校図書館メディアの種類と特性 2) 学校図書館メディアの選択と構成 3) 学校図書館メディアの組織化 資料配列法: 書架分類法: 日本十進分類法 (NDC) 図書記号法 別置法 資料目録法: 主題目録法 件名法: 基本件名目録法 (BSH) 書誌分類法 名称による検索: 日本目録規則 (NCR) 1987年版改訂版 著者検索 タイトル検索 キーワード検索 目録の機械化 多様な学修環境と学校図書館メディアでえ射歪の配置 <目標> 1) 学校図書館司書教諭の資格の取得 2) それにふさわしい、資料組織化、資料構成に関する知識の取得 3) 学校図書館の実務業務に役立つ知識の獲得</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 メディアの構成: 資料論 2 分類 3 書架分類 4 日本十進分類法 1 5 同上 2 6 分類法演習 1 7 同上 2 8 目録法 9 同上 (タイトル目録) 10 同上 (著者目録) 11 同上 (件名目録) 12 機械化目録 13 多様な学習環境と学校図書館メディア 			
<p>[成績評価の方法] テスト70% 課題応答20% 出席10%</p>	<p>[参考文献] 木原通夫 [ほか] 『資料組織法』 第一法規 2002 高鷲忠美 [ほか] 『学校図書館メディアの構成』 放送大学教育振興会 2000</p>			
<p>[教科書] 木原通夫、志保田務『分類・目録法入門: メディアの構成』第一法規 2002</p>				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
学校図書館論Ⅲ（学習指導と学校図書館）		春 学 期	2 単 位	林 陸 雄
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>学校図書館の役割は、児童・生徒の読書意欲を高め、各教科の学習指導、調べ学習、総合学習等の学習指導に寄与することにある。そのためには、常に読書ニーズや学習目的を点検し、それに見合った図書・資料を選択・収集し、適切に活用できる環境を整える必要がある。さらに、彼らの学習を深め、その結果を発表する能力を育成することも求められている。この講義では、計画的な図書館運営とメディア活用能力育成のための指導について、その基本と実際をとりあげる。</p> <p>授業の展開に当たっては、現場で実践されている先生を、ゲスト講師として適宜お招きする。</p> <p>なお、学校図書館司書の役割と能力は幅広く奥深いものであるから、基礎資格に教員免許を必要とし、教員としての実務経験を10年ほど得ないことには、十全にその役割を遂行し得ないことを十分に認識しておくこと。教員免許と学校司書教諭免許があれば、大学新卒でもその専門職として採用され、直ちにその職務に就くことができるなどと、思いこまないでほしい。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業びらき 2. 教育課程の展開と学校図書館 3. メディア活用能力の育成 4. 小学校における実践1 5. 小学校における実践2 6. 小学校における実践3 7. 中学校における実践1 8. 中学校における実践2 9. 中学校における実践3 10. 学校図書館における情報サービス <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報の収集と提供 2. まとめ（テスト） 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席状況、授業毎の小レポート、ならびに定期試験の結果を総合して評価する。ただし、2/3以上の出席のないもの、遅刻早退の多いもの、授業に積極的に参加しないものは、評価の対象としない。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>授業中に適宜紹介する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>志村尚夫監修 朝比奈大作 編著『学習指導と学校図書館』、樹村房</p>				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
学校図書館論Ⅳ（読書と豊かな人間性）		秋 学 期	2 単 位	林 陸 雄
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>子ども達の豊かな心を醸成するに当たって、読書指導及び読書体験の深化は重要な役割を担っている。</p> <p>この授業では、子どもたちの読書ニーズを涵養し、読書活動を推進・援助し、人間性豊かな醸成に資する学校図書館活動の基本と実際についてとりあげる。授業の展開に当たっては、ゲスト講師を適宜お招きする。</p> <p>なお、学校図書館司書の役割と能力は幅広く奥深いものであるから、基礎資格に教員免許を必要とし、教員としての実務経験を10年ほど得ないことには、十全にその役割を遂行し得ないことを十分に認識しておくこと。教員免許と学校司書教諭免許があれば、大学新卒でもその専門職として採用され、直ちにその職務に就くことができるなどと、思いこまないでほしい。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 読書と人間 2. 読書資料の種類と活用 3. 小学生への読書指導1 4. 小学生への読書指導2 5. 小学生への読書指導3 6. 中学生への読書指導1 7. 中学生への読書指導2 8. 中学生への読書指導3 9. 読み語り1 10. 読み語り2 11. 読み語り3 12. 環境整備と連携 13. まとめ（テスト） 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業毎の小レポート、定期試験の結果を総合して評価する。</p> <p>ただし、2/3以上の出席のないもの、遅刻早退の多いもの、授業に積極的に参加しないものは、評価の対象としない。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>授業中に適宜紹介する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>志村尚夫 監修 赤星 隆子 編著『読書と豊かな人間性』、樹村房</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
視聴覚教育		秋学期	2単位	冷 水 啓 子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>情報社会の進展に伴って、人々を取りまく教育・社会的環境が急速に変化しつつある。家庭、学校、地域社会において、衛星放送、ケーブル・テレビ、字幕番組、地上デジタル放送などの普及により、テレビ利用の選択肢がさらに広がった。また、さまざまな電子メディアが導入され、日常的にそれらに接する機会が増えた。コンピュータ・ネットワークやインターネットを通じて、情報の検索や受信を行うだけでなく、情報発信さえも容易にできるようになり、時間や空間を越えた幅広いコミュニケーション活動が可能となった。そのため、このような視聴覚メディアを媒介として情報を適切に理解し、利用し、産出する能力（マルチメディア・リテラシー、情報活用能力、情報倫理など）の育成が、新たな教育課題として重要視されるようになった。</p> <p>そこで、この「視聴覚教育」では、「視聴覚教育とメディア」に焦点を絞り、視聴覚教育メディアの発展と特徴、それらを活用した学習支援の方法を検討する。さらに、それらの利用に際する問題点およびその教育的可能性と限界についても考察を行う。具体的には、はじめに講義中心の授業を行い、つぎにコンピュータ実習（インターネット利用および PowerPoint によるプレゼンテーション教材の企画・制作）を行う。</p> <p>なお、授業に関連する資料は、コンピュータ、OHC、VTR、印刷物などを通じて適宜提供する。受講に際し、各自 Word や Excel などの基本的操作を習得しておくことが望ましい。受講生の主体的・積極的な授業参加を期待している。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 視聴覚教育および視聴覚教育メディアの発達 <ol style="list-style-type: none"> 視聴覚教育および視聴覚教育メディアとは何か 視聴覚教育メディアの変遷 活字・印刷物の利用：テキスト、絵本、児童書など テレビとビデオの利用：その利用形態と社会・教育的役割 <ol style="list-style-type: none"> ①テレビと子ども ②幼児教育番組 ③字幕や手話通訳つき番組 コンピュータの発展と教育利用（コンピュータ実習を含む） <ol style="list-style-type: none"> コンピュータ・ゲーム：子どもの発達と学習への影響 コンピュータの教育利用：CAI、CMI インターネットの利用 コンピュータ・リテラシーや情報活用能力の育成 コンピュータ利用をめぐる教育・社会的諸問題 視聴覚教育メディアの活用：プレゼンテーション教材制作 <ol style="list-style-type: none"> 教育目標・内容の設定および制作方法の企画 資料集めおよび制作作業 <p>〔但し、授業の進捗状況によってこの計画内容を変更することがある〕</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>主体的・積極的な授業への出席・参加を重視する。学期中必要に応じて簡単なレポート課題を与える。学期末には、制作したプレゼンテーション教材および修了レポートの提出を求める。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>情報教育学会他（編）『インターネットの光と影』（北大路書房） 水越敏行・佐伯胖（編）『変わるメディアと教育のありかた』（ミネルヴァ書房） 無藤隆（編）『テレビと子どもの発達』（東京大学出版会） 永田元康 他（著）『情報教育概論』（コロナ社） 中島義明（著）『映像の心理学—マルチメディアの基礎—』（サイエンス社） （財）日本視聴覚教材センター（編）『視聴覚教材メディアの活用』 野津良夫（編）『視聴覚教育の新しい展開（第2版改訂版）』（東信堂） 高島秀之（編）『教育とデジタル革命』（有斐閣選書） 他</p>			
<p>[教科書]</p> <p>追って指示する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
生涯学習概論	01 02	春 学 期 秋 学 期	2 単 位 2 単 位	伊 藤 正 純
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>日本でも生涯学習は当たり前の言葉となってきたが、しかし、政府および地方自治体が普及をはかっている割には、人々に浸透しているようには思えない。生涯教育・生涯学習は1960年代、70年代にユネスコ、OECDなどの国際機関が提唱したものである。それは急速な技術革新と高齢化の進展に対応して、勤労成人を含めてすべての人々に学習機会を保障する必要があるからである。生涯学習普及にとって最大のネックは時間である。その意味でも、ILOが勧告した有給教育休暇制度を導入しないかぎり、日本の生涯学習はいつまでたっても中途半端で終わらざる。本講義では、生涯学習大国・スウェーデンと比較しながら、日本の生涯学習の現状を紹介し、考えたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 生涯学習とは何か <ul style="list-style-type: none"> ユネスコの生涯教育論、OECDのリカレント教育論 ILOの有給教育休暇勧告 生涯学習の国・スウェーデンでの実験 <ul style="list-style-type: none"> 労働市場プログラム、リカレント教育、コミュニオン成人教育、国民高等学校、高い成人学生の割合、学生ローン制度、教育休暇制度、成人教育奨学金制度、学習サークル 日本の「生涯学習社会」とその現状 <ol style="list-style-type: none"> (1)臨教審答申、生涯学習振興法 (2)地方自治体の取り組み（市民大学、公民館活動など） (3)大学改革、高校改革、生涯学習機関としての学校コンソーシアムなど 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>司書および学芸員の資格取得科目でもあるので、出席を重視する。毎回、授業の感想を書いてもらう。評価の8割はこの感想文で、残りの2割は期末試験で評価する。なお、20分を超えた遅刻は原則として認めない。</p>	<p>[参考文献]</p> <ol style="list-style-type: none"> 監修代表 鈴木眞理、シリーズ 生涯学習社会における社会教育<<全7巻>> 学文社 黒沢惟昭他編『苦悩する先進国の生涯学習』社会評論社 赤尾勝己『生涯学習概論』関西大学出版部 森岡孝二他編『21世紀の経済社会を構想する』桜井書店 			
<p>[教科書]</p> <p>使用しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
図書館通論		春学期	2 単位	志保田 務
<p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>図書館、図書館情報学のおおよそについて平易に概説する。まず、図書館は何をやるべきかを把握し、その果たす役割について考える。そこで情報と図書館の関係、社会と図書館の関係、生涯学習社会について検討する。次に図書館を構成する要素を確かめる。図書館の要素は、図書→資料→情報、館（建物）→図書館システム、図書館員→司書（専門職員）→利用者（住民）の4点に分かれるが、本講義では、利用者（住民）および図書館システムに焦点をおく。ここでは図書館サービスが追究の対象となる。各種の館種のうちここでは公共図書館を中心に論じる。また、「図書館の自由」や図書館経営、図書館の情報化、図書館世界の将来等について検討する。</p>			<p>〔講義計画〕</p> <p>1. 図書館とはなにか 2. 図書館の果たす役割 3. 情報の伝達と図書館 4. 社会、生涯学習と図書館 5. 図書館の構成要素 6. 図書館の種類（館種） 7. 公共図書館：理念 8. 公共図書館の歴史と現代 9. 公共図書館の利用者 10. 図書館の自由 11. 図書館経営</p> <p>12. 図書館と情報化 13. テスト</p>	
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>テスト80% レポート 20%</p>				〔参考文献〕
〔教科書〕 志保田務編著『図書館概論』（樹村房）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
図書館経営論		秋学期	2 単位	志保田 務
<p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>図書館の経営について学ぶ。図書館の経営とはどういうことであろうか。それぞれの図書館は、他の図書館と比べると何らかの違いを有する。資料に着目した場合、蔵書量の豊かな図書館があり、あるいは幅広く雑誌・新聞を集めている図書館がある。図書館活動に着目すると、資料貸出し量重点の図書館が多いが、他方にレファレンス、集会など施設を拠点として活動する図書館がある。施設面に注目すると、大きな本館を築き活動する図書館がある一方、分館の設置や、移動図書館に力を入れる図書館がある。専門の司書をそろえた図書館がある一方、人材派遣に頼る図書館もある。これらは公共図書館を土台にした例であるが、大学、学校図書館の事情は随分異なる。また多様である。</p> <p>このような、図書館ごとの特徴は多分に伝統など過去に起因している。だがそれならば、近未来の各図書館像の如何は現在の図書館経営者の策・実行にかかるといえる。各館はサービス計画を立て、実行に移す。その間には経費（人手、資料等）の予算化が必要となる。最後に活動の効果測定、計画の評価をし、次の対策に入る。図書館経営論ではこうしたことについて考える。</p>		<p>〔講義計画〕</p> <p>1. 「図書館経営論」ガイダンス（講義計画説明） 2. 「図書館経営論」の位置付け（図書館法施行規則における） 3. 「図書館経営」の意味、意義・必要性 4. 図書館経営論の沿革 5. 図書館経営の原則 6. 図書館サービス計画と経営計画 7. 図書館の経営管理組織 8. 館種別考察 9. 図書館活動及び図書館経営の評価 10. パフォーマンス指数 11. まとめ 13. テスト</p>		
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>テスト80% 課題 20%</p>				〔参考文献〕
〔教科書〕 使用しない（プリント等による）。				<p>1) 高山正也編著『図書館・情報センターの経営』（勁草書房） 2) 高山正也編著『図書館経営論』（樹村房）</p>

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
図書館サービス論		春学期	2 単位	西 田 文 男
[講義概要・学習目標] 利用者と直接係わる図書館サービスの意義、特質、方法について解説するとともに各種サービスの特質を明らかにする。	[講義計画] 1. 図書館サービスの意義と種類（貸出、読書案内、情報サービス、利用者援助、教育・文化活動など） 2. 利用者理解と利用対象別サービス（多文化サービスを含む） 3. 図書館サービスと著作権 4. 図書館サービスとボランティア 5. 図書館サービスの協力（他の図書館、関係機関との連携・協力等）			
[成績評価の方法] 定期試験の成績を主に、出席状況も加味して評価する。	[参考文献] その都度指示する。			
[教科書] 塩見 昇「図書館サービス論」 教育史料出版会 （新編 図書館学教育資料集成 3）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
情報サービス概説		春学期	2 単位	西 田 文 男
[講義概要・学習目標] 図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等について総合的に解説する。	[講義計画] 1. 情報サービス一般の広がりとは図書館が行う情報サービスの位置づけ 2. 図書館における情報サービスの意義と種類（レファレンスサービス、レフェラルサービス、カレントアウェアネスサービス等） 3. 情報及び情報検索行動についての基本的理解 4. レファレンスプロセス（レファレンス質問の受付から回答まで、マニュアル検索とコンピュータ検索を含む） 5. 情報検索サービスの方法、プロセス・評価 6. 主要な参考図書、データベースの解説と評価 7. 参考図書及びその他の情報源の組織（二次資料の作成にも触れる） 8. 各種情報源の特質と利用法			
[成績評価の方法] 定期試験の成績を主に、出席状況も加味して評価する。	[参考文献] その都度指示する。			
[教科書] 西田文男監修、志保田 務・平井尊士編著 「情報サービス：概説とレファレンスサービス演習」 学芸図書				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
情報サービス演習		秋学期	1 単位	西 田 文 男
[演習概要・学習目標] 参考図書その他の情報源の利用や作成、レファレンス質問の回答処理の演習を通して、実践的な能力の養成を図る。	[演習計画] タイプの異なる各種の演習問題を課し、回答を作成してもらう。またそれを発表してもらう。 1. 図書に関する質問 2. 逐次刊行物に関する質問 3. ことばと成句に関する質問 4. ものとことがらに関する質問 5. 時と歴史に関する質問 6. ところと地理に関する質問 7. ひとと機関に関する質問 8. 総合質問			
[成績評価の方法] 定期試験の成績を主に、出席状況、日常の発表等を加味して評価する。	[参考文献] その都度指示する。			
[教科書] 西田文男監修、志保田 務・平井尊士編著 「情報サービス：概説とレファレンスサービス演習」 学芸図書				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
情報検索演習	01	7・8月集中	1 単位	都 築 泉
[演習概要・学習目標] 図書館の利用者に対するサービスとして、オンライン・オンディスクのデータベースの提供は、昨今必須である。データベースを利用して種々の情報を引き出す業務を担当する専門家はサーチャー（インフォメーション・スペシャリスト）と呼ばれ、大学図書館・公共図書館・企業内図書館などで活躍している。一方、図書館の役割としては、情報管理者としての立場から利用者が利用しやすい環境を整備することが求められている。ここでは、1級と2級の上級サーチャーの前段階としての情報検索基礎能力試験（（社）情報科学技術協会が行う）を目標において、実践を交えながら学習する。 当講義の受講には、第1回の講義までに次の条件を満たしておくこと。 1. E-mailアドレスを取得しておくこと（学内LANのそれでもよい）。 2. パソコンキーボードの操作・入力ができること。	[演習計画] 1. ガイダンス 情報管理概論 2. データベース概論、情報の検索と利用に関する知識、 3. 情報検索の基本1（主題分析、分類、キーワード、一時情報と二次情報） 4. 情報検索の基本2（検索式、コマンド） 5. 情報検索の実際1-図書、雑誌 6. 情報検索の実際2-新聞記事、雑誌記事、企業情報 7. 情報検索の実際3-人物情報、生活情報、趣味、その他 8. 特許情報 9. 海外のオンライン情報検索システム 10. インターネットの利用 11. 情報の活用 12. 情報検索担当者の企業での役割			
[成績評価の方法] テスト 70% 課題 20% 出席 10%	[参考文献] 「情報活用術：情報検索 情報処理の楽々実行」（学芸図書）2300円 編著者：志保田 務・平井尊士・中崎修一 「最新オンライン情報源活用法」（日外アソシエーツ）2000円			
[教科書] 「情報検索の基礎知識」（情報科学技術協会） 2000円				
①生協にて一括購入し販売する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー プ
情報検索演習	02	春学期	1単位	志保田務
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>現代社会は、情報化、コンピュータ化のただ中にある。オンライン、オンデスクのデータベースは図書館にとって常識化している。データベースに関する知識と、その扱いについてここでは学ぶ。さらに検索の専門家サーチャーへの登竜門となる情報検索基礎能力試験をも目指す。</p> <p>各分野の専門家によるインテグレーション授業として、INFOST（情報科学技術協会）の中心メンバーの指導を受ける。第2回目以後の授業では、情報センターのコンピュータ演習室を使用する。</p> <p>この授業の受講を始めるには、第1回講義までに、次の条件を満たしておくこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 パソコンキーボードの操作、入力ができる。 2 E-MAILの受発信ができる。 	<p>[演習計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報検索演習概説 2. 情報処理基本技術 3. 検索式（コマンド） 4. 一次情報と二次情報 5. 図書情報、雑誌・新聞記事の検索 6. 企業、人物情報とその検索1（日本のDB） 7. 企業、人物情報とその検索2（外国のDB） 8. 医学薬学情報とその検索 9. 特許情報とその検索 10. 生活情報とその検索 11. 情報検索と英語 12. サーチャー試験案内 13. まとめ 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>テスト70% 課題 20% 出席 10%</p>	<p>[参考文献]</p> <p>志保田務編著『情報機器論・特論：メディアの活用』（第一法規）</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
情報検索演習	03	秋学期	1単位	中崎 修一
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>現在、多様化した情報資源を活用する能力は必須となっている。特に、ネットワークを利用することで、場所を移動することなく、世界中の様々な情報源から必要な情報を瞬時に収集できるようになった。</p> <p>本演習では、情報の読み方や多種多様な情報の検索を通じて、情報源の調査、情報収集の手法と多様化した情報源へのアクセス法の習得を図ると同時に、実践的な技術の習得を図ることを目的とする。</p> <p>レポート提出および連絡を電子メールで行うため、基本的なパソコンおよび電子メールの利用を習得していることを前提とする。</p>	<p>[演習計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報化社会と情報メディア 2. 情報検索概説 3. 一時情報と二次情報 4. データベース基礎 5. 情報検索の論理 6. インターネットと情報検索 7. 情報検索の実際：図書情報 8. 情報検索の実際：雑誌情報 9. 情報検索の実際：新聞情報 10. 情報検索の実際：学術情報 11. 情報検索の実際：その他 12. まとめ 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>課題提出、筆記試験、出席から総合的に判断する</p>	<p>[参考文献]</p> <p>志保田務・平井尊士編著『情報機器論・特論：メディアの活用12章』（第一法規） 『情報検索の基礎』第2版（情報科学技術協会） 『最新オンライン情報源活用法』（日外アソシエーツ）</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
図書館資料論		秋学期	2単位	谷 本 達 哉
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>図書館にある「資料・メディア」とは？</p> <p>この授業の目的（ねらい） 図書館にある資料、「それは“本（図書）”・・・？」これは多くの人が抱くごく自然なイメージなのかもしれません。しかし、実際には“本（図書）”以外にも様々なタイプの資料やメディアが図書館には存在します。しかも、そのすべてが本（図書）と同様に自由に利用することができるのです。この科目では、図書館の資料・メディアの種類や特徴、利用の方法などを個別に解説して、その全体像についての理解を深めることを目的とします。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>授業では、図書館で扱う資料／メディアについて、次のようなテーマを中心にして解説します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○図書館の資料・メディアとは：意義と役割 ○図書館の資料・メディア：種類 資料・メディアの類型化 かたちと利用法による区分 資料・メディアの特徴 図書、逐次刊行物、ファイル資料、視聴覚資料、デジタル資料、一般図書、レファレンス資料、児童資料、障害者資料、地域資料 ○図書館資料と出版流通の関わり ○図書館資料を創る：蔵書の構成 蔵書構成の過程、資料の選択、資料選択の手法、資料の収集（受入）、資料の保存、資料の評価 ○図書館の資料・メディアと「図書館の自由」 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末試験および授業中の課題、出席や受講態度を重視します。 また、資格課程科目ですから、授業への出席は勿論、履修にあたって積極的で熱心な姿勢を求めます。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>適宜、講義の中で紹介します。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>志保田務・山本順一監修『資料・メディア総論』学芸図書、2001</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
専門資料論		春学期	2単位	松 永 俊 男
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>学術文献と一般資料との違い、分野による学術文献の特徴、学術文献の利用方法などについて解説する。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学術文献とはなにか 2. 学術文献の種類と特徴 3. 学術雑誌の歴史 4. 学術における不正 5. 二次資料 6. 学術文献のデジタル化 7. 百科辞典 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常点と最終テストとを総合して評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
資料目録法		春学期	2 単位	北 克 一
[講義概要・学習目標] 図書館は資料・情報を収集・整理・保存し、提供する社会的記憶装置である。図書館活動を基礎で支える資料・情報の組織化につき、その意義の理解を進め目録法等の基礎知識を獲得すると共に、ネットワーク時代の資料・情報組織化の最新状況の理解を目標とする。 ネットワークの進展と情報のデジタル化は、図書館という概念の「一般化」を及ぼし、図書館活動は、検索エンジン、ネットワーク出版、デジタル・アーカイブなど情報知識産業との融合・協同へと変化しつつある。図書館活動を支える目録法等の基礎知識に理解に止まらず、ネットワーク時代の資料・情報組織化の現状を講義する。聞き慣れない専門用語が頻出するが、挫けないで努力してほしい。	[講義計画] 講義計画 1. 書誌コントロールと資料組織化の目的・意義、歴史 2. 目録の機能、目録規則の構成原理、その適用 3. 典拠コントロールの目的と機能 4. 書誌レコードと典拠ファイル 5. 機械化、総合目録、インターライブラリー・ローンへの展開 6. 電子ジャーナル、電子図書館、メタデータなど 7. まとめ			
[成績評価の方法] 試験	[参考文献] 参考文献 日本図書館情報学会研究委員会編『電子図書館』勉誠社、2001。 井上如〔ほか〕著『学術情報サービス—21世紀への展望—』丸善、2000。			
[教科書] 木原通夫〔ほか〕著『資料組織法 第5版』第一法規出版、2002.4。 *志保田先生、担当科目「資料組織概説(分類)」と共通です。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
資料分類法		春学期	2 単位	吉田 憲一
[講義概要・学習目標] 「Books are for use」(インドの分類学者ランガナタンの図書館学の第一法則)との余りに当然と思われる命題も真となってまだわずか百数十年を経過するにすぎない。膨大な図書館資料を迅速かつ有効に利用できるためには、図書館資料の排架方法を知り、主題から資料にアクセス(検索)するための理論を会得することが第一に必要なのである。ネットサーフィンが普及した現在、この主題検索への興味は社会的に大変な高まりを見せている。 そしてこの主題検索の理論は、大別すると分類法と件名法に2分される。この科目では、両者に共通する主題検索の基本的な考え方を学んでもらうことを目的とする。	[講義計画] 今日の多くの大学図書館で利用に供されているOPAC(オンライン閲覧目録)の時代にマッチした理論として考えていきたい。 7) 分類法 1. 資料分類の意義 2. 基礎的理論: 分類の構成原理 3. 世界の代表的な分類表 4. 分類表の作成 5. 日本十進分類法: 助記法およびその構造 6. 相関索引等 7) 件名法 1. 分類法と件名法の比較 2. 件名標目表とシソーラス 3. 基本件名標目表			
[成績評価の方法] 出席および最終講義時のテスト結果で評価する。	[参考文献] 丸山昭二郎編『主題情報へのアプローチ』(雄山閣)			
[教科書] 木原通夫ほか著『資料組織法 最新版』(第一法規出版)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
資料目録法演習	01	秋学期	1単位	北 克 一
	02	秋学期	1単位	
[演習概要・学習目標]		[演習計画]		
<p>資料組織概説(目録)で学習した目録規則、典拠コントロールなどを目録作成の演習を通して、目録に対する理解・経験を深めることを目的とする。</p> <p>実際に書誌ユーティリティを使用し、書誌データベース構築を基礎演習する。コンピュータを使用した演習になるので、キーボード入力、かな漢字変換、マウス操作などを事前に学習しておくことが望ましい。積み上げ学習なので、途中欠席をしないこと。</p> <p>各人の演習データ保存用に、新規のフロッピー・ディスク(3.5インチ/2HD)を必ず持参のこと。(半年間の演習成果を記録します。)</p>		<p>1. カード目録作成演習と記述、標目概念の理解</p> <p>2. 書誌ユーティリティのシステムと参加図書館の役割</p> <p>3. 書誌レコード、典拠レコードの検索演習</p> <p>4. 和図書所蔵登録・流用入力・新規入力演習</p> <p>5. 洋図書所蔵登録・流用入力・新規入力演習</p> <p>6. 和雑誌所蔵登録演習・洋雑誌所蔵登録演習</p> <p>7. 典拠コントロール演習</p> <p>8. OPAC構築演習</p> <p>9. まとめ</p>		
[成績評価の方法]		[参考文献]		
<p>提出演習課題と理解テストの総合で評価する。</p>		<p>根本 彰著『文献世界の構造』勁草書房、1998。</p>		
[教科書]				
<p>北 克一著『資料組織演習 改訂新版2刷』M.B.A., 2003.7.</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
資料分類法演習		秋学期	1単位	吉田 憲一
[演習概要・学習目標]		[演習計画]		
<p>後期の演習(分類法)では、資料の内容(主題)にかかわる検索のためのおよび「基本件名標目表」(BSH)を用いて授業を進める。毎回、演習課題を課して、それへの解答作成を通じて、主題組織化の実際を学習してもらうことをねらいとする。</p>		<p>1. 主題組織化のための2つの方法 分類法と件名法比較</p> <p>2. 分類法 ①分類作業 ②一般分類規程 ③特殊分類規程 ④各類演習 ⑤別置法・図書記号法</p> <p>3. 件名法 ①件名作業 ②件名規程</p>		
[成績評価の方法]		[参考文献]		
<p>授業時に行う演習問題の解答レポートと、テストで総合評価する。</p>		<p>日本図書館協会編刊 『日本十進分類法 新訂9版』 日本図書館協会編刊 『基本件名標目表 第4版』</p>		
[教科書]				
<p>吉田憲一編著 『資料組織演習 新訂版』(日本図書館協会) (JLA図書館情報学テキストシリーズ10)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
児童サービス論		春学期	2 単位	清 水 昭 治
【講義概要・学習目標】 この科目は、図書館における「児童サービス論」です。図書館、特に公共図書館では、中学生までのサービスを児童サービスと考えられており、赤らめん・幼児向けの絵本から、小学生・中学生までの幅広い本が準備されています。まず、この現状を学びます。少子化時代に入り、絶対数の子供の減少と共に、社会的事件の中での子供達が注目されています。子供達の成長にとって、読書がいかに必要か、その読書を土さえる児童サービスの重要性を考えます。生涯教育が立上げられる中で、図書館の必要性は、ますます増大します。その時、図書館利用が、習慣化されることは大切です。その習慣化の第一歩が図書館における児童サービスなのです。	【講義計画】 講義と共に、具体的に、実際に、多量に出版されている子供の本を紹介しながら、又、「読みかきせ」などを通じて、子供の本を楽しみながら、講義をすすめます。 又、ビデオ・スライドなどを利用して、具体的に子供の本の図書館の姿を学びます。			
【成績評価の方法】 レポート、又は、学年末試験に加えて、出席状況や、平常成績とを総合評価します。	【参考文献】 参考文献は、講義の中ひ、お知らせしますが、まずは、文献よりも実際の図書館の児童室、あるいは、児童コーナーを体験しておいてください。 具体的には、少し、躊躇しますが、一度、体験すれば、一般向の図書館と同じように利用できますことと思います。			
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
図書及び図書館の歴史		秋学期	2 単位	上 田 格
【講義概要・学習目標】 人類の体外記憶媒体である図書は、依然として図書館資料の中心位置を占めている。その図書の歴史の変遷をたどり、最新の電子資料にいたる歩みを概説する。 次に、図書をはじめとする各種メディアの保存・提供の場所であった図書館が、一部特権階級の人たちの占有物であった時代から、広く一般民衆に開放されるまでの歩みを、思想的・制度的変遷の経過を含めてわかりやすく講義する。	【講義計画】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 記録の誕生と図書の歴史 2. 印刷の歴史 3. 非図書の出現 4. 古代の図書館 5. 中世の図書館 6. 近世の図書館 7. 近代図書館の先駆け 8. 近代公共図書館の誕生 9. 日本の近代図書館の歩み 10. 日本の近代図書館の歩み 続 			
【成績評価の方法】 定期試験（筆記）を行って評価する。出席状況も加味。	【参考文献】 『図書館 その本質・歴史・思潮』増補版 岡田 温著 丸善 『近代図書館の歩み』森 耕一著 至誠堂 『図書館の歴史 アメリカ編』増訂版 川崎良孝著 日本図書館協会 （図書館員選書 31）			
【教科書】 『図書館の話』森 耕一著 至誠堂 （至誠堂選書）				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
資料特論		秋学期	2単位	松永俊男
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>行政資料、郷土資料、および視聴覚資料のそれぞれについて、その特徴、収集、利用等を解説する。それぞれの専門の研究者によって講義が行われる。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 行政資料について 3. 情報公開制度について 4. 視聴覚資料について 5. 郷土資料について 6. CD-ROM 資料について 7. 資料のデジタル化について 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>講師それぞれの評価を総合して評価する。各講師の評価は、レポート、または授業後の小テストによって行われる。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
情報機器論		秋学期	2単位	藤間 真
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>近年の図書館は、単なる紙の集積ではない。色々な情報機器によって装備されている。そのことは、本学の図書館に1歩入って周りを見渡すだけでわかるであろう。言い換えると、情報機器に関する知識はこれからの司書にとって不可欠の知識である。</p> <p>本講の目的は図書館における情報機器に関する基本的な知識の修得である。単なる現状追認に終わらず、司書としての人生に役立つよう本質的な理解を目指す。そのために、単純な一方通行の講義ではなく、主体的に自分の頭で考えることを要求する講義運営を目指す。</p> <p>具体的な計画は右欄の通りであるが、コンピュータの世界の変化と講義の進展の状態に応じて変更することもありうる。</p> <p>なお、受講生への連絡は大学のメールを用いるので最低限の操作はできるようになっていることを前提とする。</p>	<p>[講義計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本講義で要求するレポートのレベルについて ・情報を機械で扱うとは ・図書館学の五法則と情報機器 ・図書館で使われる情報機器 ・情報処理システムの基礎知識 ・パソコンの基礎知識 ・視聴覚機器とプレゼンテーション 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学期末レポートを主に、平常成績を加味し総合的に判断する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>進行状況に応じて指示する。 尚、講義に必帯とはしないが、 志保田務・平井尊士 編著 図書館と情報機器・特論：情報メディアの活用 第一法規 に目を通すことは要求する。</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
図書館特論		秋 学 期	2 単 位	志保田務
<p>[講義概要・学習目標] 現代図書館の諸問題について考察する。問題点の大枠は、図書館の自由に関する問題、情報化、国際化ということである。特に、「情報」に重点をおく。そうしたなかで、システムアドミニストレータ一、サーチャーなどにも光をあてたい。</p>	<p>[講義計画] インテグレーション授業であり、講師の構成を後に発表し、課題も示す。</p>			
<p>[成績評価の方法] テストほか 課題とうへの対応をもとにおこなう。</p>	<p>[参考文献] 志保田務, 平井尊士, 中崎修一『情報検索術』学芸図書, 2000年, 2300円</p>			
<p>[教科書] 特には定めない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
博物館概論		春学期	2単位	井上 敏
<p>[講義概要・学習目標] 学芸員課程の基幹科目である。はじめの講義で、学芸員課程の諸科目で何を学ぶのか、この「概論」の目的は何かについて、ガイダンスを行う。この講義では、博物館に関する最も基礎的な知識を学ぶ。 また本講義においては博物館に行ってもらい、見学レポートを2本書いて、提出してもらおう。その締め切りは4月末、5月末の予定である。 <u>※見学レポートを提出しなかった者は本講義を放棄したものとみなすので、十分注意すること。</u></p>	<p>[講義計画] 1. 博物館の目的と機能 2. 博物館の歴史 3. 博物館の現状 4. 博物館倫理 5. 博物館関係法規 6. 生涯学習と博物館</p>			
<p>[成績評価の方法] 出席を含む受講態度とレポート、及び試験</p>	<p>[参考文献] 倉田公裕・矢島國雄『新編 博物館学』東京堂出版(1997) その他適宜指示する。</p>			
<p>[教科書] 広瀬隆人(編)『博物館学基礎資料』樹村房(2001)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
博物館学各論Ⅰ		春 学 期	2 単 位	水口 薫
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>近年、博物館及び博物館相当施設が増え、社会におけるその機能、役割が注目されてきている。特に生涯学習、学校教育、研究活動において、その領域は拡大し、その必要性和相まって博物館への関心は高くなっている。新しい博物館像が模索される中でも、学芸員は博物館の基本機能である資料収集、保存、研究、教育・普及活動の知識と活用する能力が求められている。</p> <p>本講義では、博物館学芸員が身につける「博物館資料論」を内容とする。</p> <p>博物館学芸員が身につける博物館機能の構成要因の一つである博物館資料の収集・保管・展示等についての基礎知識の習得、調査・研究、教育・普及活動及び情報の意義と活用方法についての理解を図る。</p> <p>適時ビデオ資料を使用する。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>「博物館資料論」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 博物館とは何か 博物館資料の概念 2. 博物館資料の種類と特質 3. 博物館資料の収集・調査と整理 4. 博物館活動と資料情報 5. 博物館資料の取り扱い方と製作 6. 博物館資料の保存と劣化対策 7. 虫菌害と防除対策 8. 博物館資料の利用 9. 展示の実際1 展示と環境・条件 10. 展示の実際2 展示方法と照明 11. 展覧会の企画と開催 12. 博物館の危機管理と地震対策 13. 資料論からみた博物館 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席を兼ねた小テスト（適時）、定期試験と出席点にて総合評価</p>		<p>[参考文献]</p> <p>『博物館学教程』大堀哲編（東京堂出版） 『博物館学概説』網干善教編（関西大出版部）</p> <p>その他、講義の時に提示する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>「博物館ハンドブック」（雄山閣）加藤有次、椎名仙卓（編）</p> <p>適時、プリントを配布。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
博物館学各論Ⅱ		秋 学 期	2 単 位	水口 薫
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>近年ミュージアム・マネージメントという研究活動領域が拡大している。生涯学習の必要性和相まって博物館への関心は高く、博物館でも教育・福祉・援助・環境保護などあらゆることにマネージメント感覚が求められている。</p> <p>本講義では、博物館学芸員が身につける「博物館経営論」「博物館情報論」を内容とする。</p> <p>博物館学芸員が身につける博物館機能の構成要因の一つである博物館経営、教育・普及活動及び情報の意義と活用方法についての理解を図る。</p> <p>適時ビデオ資料を使用する。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>「博物館経営論」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 博物館の行財政 2. 博物館経営の理念と方法（ミュージアム・マネージメント） 3. 博物館の組織と職員及び施設・設備 4. 博物館と利用者、地域社会との関係 5. 博物館における教育普及活動の意義と方法 6. 博物館における市民参加とボランティア 博物館友の会・後援会 7. 博物館の出版活動 8. 博物館の広報活動 <p>「博物館情報論」</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 博物館における情報の意義 10. 博物館における情報提供と活用の方法 11. 博物館における情報機器とその利用 12. 情報発信機関としての博物館 13. 博物館の教育・普及活動における資料と情報 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席を兼ねた小テスト（適時）、定期試験と出席点にて総合評価</p>		<p>[参考文献]</p> <p>「ミュージアム・マネージメント 博物館運営の方法と実践」（東京堂出版） 大堀哲、小林達雄、端信行、諸岡博熊（編）</p> <p>その他、講義の時に提示する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>「博物館ハンドブック」（雄山閣）加藤有次、椎名仙卓（編）</p> <p>適時、プリントを配布。</p>				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー プ
博物館実習Ⅰ		9月集中	1単位	井上 敏
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>博物館資料の取り扱いや展示に関する基本的なことを学内、学外の施設で実習する。分野毎に専門の教員が担当して指導する。 予定している実習は「博物館資料の写真記録の撮り方」、「デジタル加工による博物館二次資料の作成」、「土器の復元」、「考古遺物の実測」、「文書資料の取り扱い」等である。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>9月中旬に5日間連続で実施する。詳細な日程については追って発表するので、注意すること。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>全出席が原則である。主に実習ノートによって評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p>				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー プ
博物館実習Ⅱ		集中コース	1単位	井上 敏
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>多様な博物館の現状を理解するために、各種の博物館において見学研修を行う。専任教員が交代で引率し、出席の確認を取る。土曜、日曜または休暇中に実施する。総計で12回実施するが、そのうち4回は両コース共通、コース別にそれぞれ4回である。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>日程の詳細は追って発表するが、予定している博物館は下記の通りである。</p> <p>両コース共通：和泉市いずみの国歴史館、大阪歴史博物館、滋賀県立琵琶湖博物館、国立民族学博物館。</p> <p>産業文化コース：交通科学博物館、大阪ガス・ガス科学館、UCCコーヒー博物館、なにわの海の時空館。</p> <p>東洋文化コース：和泉市久保惣記念美術館、堺市博物館、大阪城天守閣、大阪府立弥生文化博物館</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>主に実習ノートによって評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p>				